

科目名	ブライダルコーディネーター技能検定 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	BIA検定対策授業。ブライダルコーディネーター検定3級取得の対策を通し、ブライダル業界へ従事する為の基礎知識を学ぶ。							
授業の一般目標	日本のブライダル業界に必要な基礎知識、及びブライダルコーディネーター業務について学ぶ							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	日本のブライダルの歴史、ブライダルビジネスの現状が把握できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	過去のBIA検定問題に出題されているブライダルの基礎知識を間違いなく選択することができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ブライダルに関する関心を広げ、各ブライダル業種や関連業種について調べ、説明する事ができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	前期で学んだ範囲のBIA検定過去問題を解くことができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション Lesson1 結婚とは	検定の趣旨・特徴・受験の手続きなど案内 結婚とは						
第2回	Lesson2 ブライダルビジネス	ブライダルビジネスと呼ばれる業種を学ぶ・市場の推移を知る						
第3回	Lesson2 ブライダル業種	結婚式会場・披露宴会場・その他ブライダルビジネスについて						
第4回	Lesson2 ブライダル業界の1年	繁忙期・閑散期・集客のシステムについて						
第5回	復習テスト	BIA検定過去問も含めた復習小テストの実施及び解説						
第6回	Lesson3 ブライダルの基礎	見合い・結納について・顔合わせについて						
第7回	Lesson3 ブライダルの基礎	新郎新婦の結婚までのスケジュール。検討必要事項及び時期を学ぶ。						
第8回	Lesson3 ブライダルの基礎	様々な挙式①:キリスト教式・シビルマリッジ						
第9回	Lesson3 ブライダルの基礎	様々な挙式①:神前式・仏前式						
第10回	復習テスト	BIA検定過去問も含めた復習小テストの実施及び解説						
第11回	Lesson3 ブライダルの基礎	披露宴～二次会、海外ウェディング、新婚旅行について						
第12回	Lesson4 コーディネーター業務	ブライダルセールスの特徴(商品特徴)、セールスと施行、新規から成約までの流れを学ぶ						
第13回	Lesson1～4までの総復習	ブライダル概論及びBIA検定の授業範囲の総復習						
第14回	Lesson1～4までの総復習	ブライダル概論及びBIA検定の授業範囲の総復習						
第15回	期末テスト	1回～14回の内容で期末テスト実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○	○		○		50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎		○		20	A(3):80点以上
宿題授業外レポート			○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			◎	○			20	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	國定 章子		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/kunisada/				

科目名	ブライダルコーディネーター技能検定Ⅱ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	BIA検定対策授業。ブライダルコーディネーター検定3級取得の対策を通し、ブライダル業界へ従事する為の基礎知識を学ぶ。							
授業の一般目標	日本のブライダル業界に必要な基礎知識、及びブライダルコーディネーター業務について学ぶ							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ブライダルコーディネーターの業務内容を説明することができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	BIA検定問題の基礎知識を間違いなく選択することができ、得た知識を他の実技授業で活かす事が出来る。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ブライダルに関する関心を広げ、各ブライダル業種や関連業種について調べ、説明することができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	BIA検定3級を取得できる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション	検定試験に関する詳細説明・前期復習・後期授業範囲について学習する						
第2回	Lesson5 打合せ業務	成約から披露宴本番までの打合せの流れについて学習する						
第3回	Lesson6・Lesson8 ブライダルアイテムの選定・当日業務	会場コーディネート・テーブルプラン・テーブルセッティングについて理解する						
第4回	Lesson6・Lesson7 ブライダルアイテムの選択・手配業務	ペーパーアイテム(招待状・席札など)について発送時期や基本ルールを学習する						
第5回	復習テスト	BIA検定過去問も含めた復習テストの実施及び解説						
第6回	Lesson6 ブライダルアイテムの選択	婚礼料理、飲み物、ウェディングケーキについて学習する						
第7回	Lesson6・Lesson8 ブライダルアイテムの選択・当日業務	披露宴の進行、司会や音響の役割、各種演出について理解する。						
第8回	Lesson6・Lesson8 ブライダルアイテムの選択・当日業務	披露宴の進行、司会や音響の役割、各種演出について理解する。						
第9回	復習テスト	BIA検定過去問も含めた復習テストの実施及び解説						
第10回	Lesson7 手配業務	引出物・引菓子・写真撮影や映像素材の種類などについて学習する						
第11回	Lesson7 手配業務	引出物・引菓子・写真撮影や映像素材の種類などについて学習する						
第12回	BIA検定対策集中授業	過去問題を繰り返し行い、解説。問題対策を行う。						
第13回	BIA検定対策集中授業	過去問題を繰り返し行い、解説。問題対策を行う。						
第14回	総復習	コーディネーター業務の総復習を行い、期末テスト対策を実施。						
第15回	期末テスト	前後期授業で学んだ内容で実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○	○		○		50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎		○		20	A(3):80点以上
宿題授業外レポート			○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			◎	○			20	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	國定 章子			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/kunisada/			

科目名	全米ブライダルプランナー検定 1		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	主に全米ブライダルプランナー検定2級取得を目的とした対策授業。 この授業で使用する教材から日本のブライダル業界の変遷も理解する。また、現在行われている日本のブライダルでの進行や演出の多くは、欧米のブライダルの流れを受けている事を理解し、それぞれの演出や進行が持つ歴史や意味についての知識を広げる。							
授業の一般目標	ブライダル業界で必要とされる一般的な知識を習得し、9月に実施される全米ブライダルプランナー検定の2級合格を目指す。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. ブライダルの歴史、欧米と日本の違いについて説明できる。 2. ブライダル業界の各領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた進行や演出を参考に、模擬挙式やリアルウェディングの進行を考える事ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	欧米で行われている演出や進行を実践に活かす事ができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	前期で学んだ範囲のBIA検定過去問題を解くことができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	オリエンテーション	検定試験概要説明、授業の進め方について説明。ブライダル用語について認識確認				The Business of American Weddings		
第2回	欧米編	第2章 アメリカンウェディング(ブライダルパーティーなど名称を覚える)						
第3回		第2章 アメリカンウェディング(ギフト・ペーパーアイテムなど名称を覚える)						
第4回		第6章 ブライダルコンサルタントとは(米国ウェディングの市場・コンサルタントとしての仕事など)						
第5回		第4章 アメリカンウェディング(セレモニー・3つの宗教・宗派・伝統的な言い伝えなど)						
第6回		第7章 宗教ウェディング(プロテスタント・ローマカトリック・ユダヤ教・非宗教について)						
第7回		第5章 アメリカンウェディング(レセプション 本番)						
第8回		欧米編 総復習	アメリカンウェディング 総まとめ				↓ 小テスト実施	
第9回	アメリカンウェディング 総まとめ							
第10回	日本編	日本の婚礼会場における仕事				The Business of Japanese Weddings ↓		
第11回		日本の婚礼における関連サービス・主要業者について						
第12回		日本のブライダル市場について						
第13回	日本編 総復習	日本における結婚式の総まとめ				小テスト実施		
第14回	過去問題 模擬試験(直前対策授業)	ブライダルプランナー検定3級 過去問題演習				8月29日(月)実施予定		
第15回	期末テスト実施	欧米と日本のテキストより出題						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			○		60	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2):70点以上
授業態度			○	◎			10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	森田 有香		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/				

科目名	全米ブライダルプランナー検定Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	主に全米ブライダルプランナー検定1級取得を目的とした対策授業。 前期に学習した内容を復習し、1級の範囲となるテキスト後半の対策及び、プランナーになった場合を想定した論述形式の問題への対策を行う。							
授業の一般目標	ブライダルプランナーとしての対応力を学び、9月実施の全米ブライダルプランナー検定1級取得を目指す。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. ブライダルの歴史、欧米と日本の違いについて説明できる。 2. ブライダル業界の各領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた進行や演出を参考に、さまざまなパターンへの提案を考案できる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	欧米で行われている演出や進行を実践に活かす事ができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	全米ブライダルプランナー検定1級を取得できる。論文でプランナーを想定したゲストへの提案ができる。							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション	検定試験概要説明、授業の進め方について説明。						
第2回	日本版①	1年時に学習した内容の日本版の総復習を行う						
第3回	日本版②	1年時に学習した内容の日本版の総復習を行う						
第4回	日本版③	1年時に学習した内容の日本版の総復習を行う						
第5回	欧米編①	欧米版テキスト7章～12章を過去問題に添って学ぶ						
第6回	欧米編②	欧米版テキスト7章～12章を過去問題に添って学ぶ						
第7回	欧米編③	1年時に学習した内容の欧米版の総復習を行う						
第8回	欧米編④	1年時に学習した内容の欧米版の総復習を行う						
第9回	記述対策授業	記述問題に対して、いくつかのパターンを学び、プランナーとしての提案を論文にする						
第10回	記述対策授業	記述問題に対して、いくつかのパターンを学び、プランナーとしての提案を論文にする						
第11回	総まとめ	欧米ならではの特徴を総復習(ブライダルパーティ・宗教学式など)						
第12回		日本のブライダルビジネスについて				1月0日		
第13回	検定直前対策授業	全米ブライダルプランナー検定1級試験 直前対策授業						
第14回								
第15回	期末テスト実施							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			○		50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	森田 有香			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/			

科目名	ブライダル総論		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	現在の日本における結婚の定義、歴史や文化を知り、ブライダルとは何か?どんな意味・意義があるのか?を学ぶ。 また、プランナーとしてお客様と対応に当たり必要なブライダルの基礎知識や昨今のブライダル業界の傾向や地域性による違い等を学び、対応力を身につける。							
授業の一般目標	社会人としての一般常識として冠婚葬祭の知識を身につけ、人生の通過儀礼を滞りなく実行でき、業界で働くための知識を身に付ける。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 冠婚葬祭とは何かについて説明できる。 2. ブライダル業界の概要と課題を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べるができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ブライダル業界に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で、接客サービス業に携わるサービスマナーを身に付ける事ができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ガイダンス	この授業で学ぶ内容について						
第2回	結婚の定義について	BIAテキストより: 法的意義・婚姻の要件・結婚状況について						
第3回	日本の結婚式の歴史について	BIAテキストより: 日本の結婚式の歴史・宗教と結婚式・風習やいわれ(六輝)						
第4回	挙式の種類	挙式の様々なスタイル						
第5回	結婚式の用語	六輝、忌み言葉、通常使用される業界での用語						
第6回	ブライダルのエリア特性	BIAテキストより: 日本各地域ごとの特性について学ぶ						
第7回	立ち居振る舞いについて	必要なスキルとビジネスシチュエーションでの対応						
第8回	京都・滋賀エリアの婚礼事情	京・滋ならでの婚礼スタイル～結納・顔合わせ・和婚～						
第9回	京都・滋賀エリアの婚礼事情	京・滋ならでの婚礼スタイル～結納・顔合わせ・和婚～						
第10回	LGBTQウェディング①	セクシャルマイノリティの基礎知識と同性婚の現状						
第11回	LGBTQウェディング②	セクシャルマイノリティの基礎知識と同性婚の現状						
第12回	マタニティウェディング①	女性の心身のしくみ、マタニティブライダル商品など				1月0日		
第13回	マタニティウェディング②	女性の心身のしくみ、マタニティブライダル商品など						
第14回	ブライダルをとりまく、様々なビジネス	付帯ビジネス、パートナービジネスを知る						
第15回	期末試験	1から14までの回で学んだ内容から						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	現代ホテル理論		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	今、我が国では広く社会全体で"心の教育"への注目度が高まっています。また、多くの企業や組織では、相手の立場に立って、心から相手のことを考えて行動する「ホスピタリティ」を、CS(顧客満足)の向上に役立てようとする取り組みがなされています。この授業では相手の立場に立ったコミュニケーションや気遣い、共創やそのための職場環境、顧客満足などを学びます。							
授業の一般目標	ホスピタリティのTPOと5W1Hを理解し人間行動に結び付ける。各テーマに沿った小論文を作成する事ができる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ホスピタリティに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でホスピタリティについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ホスピタリティ・マインドとは	マインドと♡ ホスピタリティとサービス 最低限のホスピタリティ実践項目						
第2回	ホスピタリティ・マインドとは・マインドと人間行動の特質	6種類の心 三種類の力 必要とされる協調的・行動的な特質						
第3回	ホスピタリティ・マインドが生きるTPOと5W1H	時 場所 場面 誰が 何を いつ どこで どうして どんなふう						
第4回	ホスピタリティ・マインドが生きるTPOと5W1H	時 場所 場面 誰が 何を いつ どこで どうして どんなふう						
第5回	ホスピタリティ・マインドを個人として生かすには	ホスピタリティ・コミュニケーションとは						
第6回	ホスピタリティ・マインドを個人として生かすには	ホスピタリティと「言葉」						
第7回	ホスピタリティ・マインドを個人として生かすには	コミュニケーション上手になる秘訣						
第8回	ホスピタリティ・マインドを組織として生かすには	社会貢献的マインド ホテル、一般企業や団体でのマインド						
第9回	ホスピタリティ・マインドを組織として生かすには	CS コンプライアンス クレドとマニュアル 公共機関とホスピタリティ						
第10回	お金とホスピタリティ・マインド	チップ制とサービス料制						
第11回	異業種間で生かされるホスピタリティ・マインド	お客様相談室の機能						
第12回	国境を越えて生かせるホスピタリティ・マインド	世界各地の特色あるホスピタリティ 経済観念とホスピタリティマインド				1月0日		
第13回	国境を越えて生かせるホスピタリティ・マインド	日本文化とホスピタリティ						
第14回	これからのホスピタリティ	マニュアルプラスのホスピタリティ 教育現場からホスピタリティを展望すると						
第15回	期末試験の実施	期末試験の実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	國定 章子			実務経験紹介				

科目名	現代ホテル理論		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ホテルをビジネスモデルとして、運営・経営の仕組みや活動を学びます。講義では、実際のホテルの活動を中心にホテルの社会的役割や、ホテルビジネスを構成する経営の仕組みを、学ぶ。							
授業の一般目標	ホテルのマネジメントに必要な、ホテルの経営形態や、危機管理、マーケティング、メンテナンス、施設管理、人材管理などの知識の習得。ホテル・旅館・レストランの起業、経営のための不動産事業の側面を学び、所有・運営・経営の分離など、外資系ホテルの経営と日経ホテルの経営を比較・分析し、これからのホテル経営の在り方を学ぶ。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ホテルについて説明する事が出来る							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ホテル以外の業界もマーケティングする事で他業界とホテル業界の違いを理解する事が出来る							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事が出来る							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でホテルについて主体的に考える事が出来る							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	ガイダンス	オープニング、授業計画の説明、ホテルについてのディスカッション						
第2回	ホテルの起源	ホテルの語源、「ホテル」とは何か定義を学ぶ						
第3回	ホテルの分類	機能別ホテル・グレード別ホテル・資本形態などについて学ぶ						
第4回	ホテル発達の歴史	宿泊施設の始まり、欧米のホテル、外資系高級ホテル、日本のホテルの歴史を知る						
第5回	ホテル産業の特徴	社会的役割やホテル商品の特殊性について学ぶ						
第6回	ホテル内での様々な職種①(宿泊部門)	ホテル内での様々な職種を理解し、それぞれの部門の基礎知識を学ぶ						
第7回	ホテル内での様々な職種②(料飲部門)	料飲部門における基礎知識						
第8回	ホテル内での様々な職種③(宴会部門)	宴会部門における基礎知識						
第9回	ホテルスタッフに求められる能力	ホテルに求められる事は何かをディスカッション						
第10回	ホテルを取り巻く環境	旅行会社との関わり、インターネットによる予約のデメリットについて学ぶ						
第11回	ホテルの社会的責任	食中毒や食べ物アレルギーへの対応や高齢者・障害者への対応など幅広く学ぶ						
第12回	これからのホテル	これから求められるホテルについて考える				1月0日		
第13回	ホテルの現場を知る(校外学習)	今まで学んできたことを前提に実際のホテルへ見学をする						
第14回	ホテルの現場を知る(発表)	学んできたことについて各自発表						
第15回	期末試験	ホテル基礎知識に関する期末試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点(小テスト・発表レポート)70%、授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎	○			30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○				10	B(2):70点以上
授業態度			○	○			20	C(1):60点以上
発表・作品	◎	○	◎	○			40	D:59点未満 未修得
演習								評価なし
出席			○					失格条件
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ホテルビジネス実務		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ホテルの各セクションごとの業務内容、用語などの基礎知識を習得し、11月開催のホテルビジネス実務検定 ベーシックレベル2級の取得を目標とする。							
授業の一般目標	ホテルビジネス実務検定を取得することにより、ホテル業界への就職した際にも即戦力として活かせる知識を学ぶ							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ホテルについて説明する事が出来る							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ホテル業界ならではのホスピタリティをプライダルのお客様にも応用する事ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事ができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でホテルについて主体的に考える事ができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	ホテルの各セクションごとの業務内容、ホテル用語を習得している。							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し検定取得を目指す								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション	この授業で学ぶ内容について、検定試験について						
第2回	ホテルの基礎	第1節 観光産業の概況						
第3回		第2節 ホテル産業の概要						
第4回		第3節 実務者として必要な基本知識						
第5回	宿泊業務について	第1節 宿泊部門の概要				確認小テスト		
第6回		第2節 宿泊部門の実務						
第7回	宴会業務について	第2節 宿泊部門の実務						
第8回		第1節 料飲部門の概要				確認小テスト		
第9回		第2節 料飲部門の実務						
第10回		第2節 料飲部門の実務						
第11回	宴会業務について	第1節 宴会部門の概要				確認小テスト		
第12回		第2節 宴会部門の実務						
第13回	宴会業務について	第2節 宴会部門の実務						
第14回		第1節 調理部門の概要				確認小テスト		
第15回		第2節 調理部門の実務						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎		○		20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点~70点
授業態度		◎	○				20	可 (D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ホテルビジネス実務		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ホテルの各セクションごとの業務内容、用語などの基礎知識を習得し、11月開催のホテルビジネス実務検定 ベーシックレベル2級の取得を目標とする。							
授業の一般目標	ホテルビジネス実務検定を取得することにより、ホテル業界への就職した際にも即戦力として活かせる知識を学ぶ							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ホテルについて説明する事が出来る							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ホテル業界ならではのホスピタリティをプライダルのお客様にも応用する事ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事ができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でホテルについて主体的に考える事ができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	前期で学んだ範囲のホテルビジネス実務検定過去問題を解くことができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し検定取得を目指す								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション	この授業で学ぶ内容について、検定試験について						
第2回	ホテルの基礎	第1節 観光産業の概況						
第3回		第2節 ホテル産業の概要						
第4回		第3節 実務者として必要な基本知識						
第5回	宿泊業務について	第1節 宿泊部門の概要				確認小テスト		
第6回		第2節 宿泊部門の実務						
第7回		第2節 宿泊部門の実務						
第8回	飲料業務について	第1節 料飲部門の概要				確認小テスト		
第9回		第2節 料飲部門の実務						
第10回		第2節 料飲部門の実務						
第11回	宴会業務について	第1節 宴会部門の概要				確認小テスト		
第12回		第2節 宴会部門の実務						
第13回		第2節 宴会部門の実務						
第14回	調理業務について	第1節 調理部門の概要				確認小テスト		
第15回		第2節 調理部門の実務						
成績評価方法								
単位認定 総成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎		○		20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート			○	◎			10	良 (B):79点~70点
授業態度		◎	○				20	可 (D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	渡邊 忠司			実務経験紹介				

科目名	ホテルビジネス実務		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ホテルの各セクションごとの業務内容、用語などの基礎知識を習得し、11月開催のホテルビジネス実務検定 ベーシックレベル2級の取得を目標とする。							
授業の一般目標	ホテルビジネス実務検定を取得することにより、ホテル業界への就職した際にも即戦力として活かせる知識を学ぶ							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ホテルについて説明する事が出来る							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ホテル業界ならではのホスピタリティをプライダルのお客様にも応用する事ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事ができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でホテルについて主体的に考える事ができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	ホテルビジネス実務検定ベーシックレベル2級が取得できる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し検定取得を目指す								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ホテルの基礎	前期学んだ知識に基づき、検定過去問解答・解説				検定過去問題		
第2回	宿泊業務について	前期学んだ知識に基づき、検定過去問解答・解説				検定過去問題		
第3回		前期学んだ知識に基づき、検定過去問解答・解説				検定過去問題		
第4回		前期学んだ知識に基づき、検定過去問解答・解説				検定過去問題		
第5回	調理業務について	前期学んだ知識に基づき、検定過去問解答・解説				検定過去問題		
第6回		検定対策				検定過去問題		
第7回	総復習2	検定対策				検定過去問題		
第8回		検定問題の解説・復習						
第9回	ホテルビジネス基礎(応用編1)	マーケティング業務について						
第10回		総務・人事業務について						
第11回	ホテルビジネス基礎(応用編3)	施設管理業務について						
第12回		仕入れ・購買業務について						
第13回	ホテルビジネス基礎(応用編5)	経理・会計業務について						
第14回						確認小テスト		
第15回	期末試験							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎		○		20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート			○	◎			10	良 (B):79点~70点
授業態度		◎	○				20	可 (D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ブライダルコスチューム I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	人生で最も華やかで輝かしい儀式「結婚式」「披露宴」のための婚礼衣装。花嫁がその運命の1着に出会われるまでのサポートをするのがコスチュームアドバイザーやスタイリストです。本授業では、衣装の歴史・ドレスコード・シルエットの名称とその似合う体型を学び、ドレスコードなどの扱い方を習得します。洋装(ウェディングドレスやカラードレス)・アクセサリー・ベールなどの小物合わせ、和装についてトータルで学習し、ブライダルの現場で即戦力となれることを目指します。							
授業の一般目標	①衣装・小物の種類を理解する。 ②ドレスの着せ方を学び、フィッティングができる。 ③補正の方法やドレスメンテナンスや、扱い方を知る。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	資料配布。参考書としてBIA『ブライダルコーディネータテキスト・スタンダード』・ABC『The Business of Japanese Weddings』							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	衣装の歴史、アイテム、シルエット、小物の名称を理解できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ドレスを美しく着せるためのパニエやファンデーションを使用する事が理解できる。シルエットに添った小物を選らぶ事ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	近年の流行に関心を持ち、新郎新婦の衣装小物、スタイリングを意識できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	ドレスフィッティングの出来栄が美しいか否かの判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	ドレスの取り扱い方を知り、お客様へ行うように丁寧に美しくドレス着付を行える。							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ガイダンス・コスチュームの概要	ブライダルコスチュームとは、コスチュームアドバイザーとは						
第2回	ウェディングドレスの基礎①	ドレス関連用語、デザインの特徴、アクセサリー、小物の種類など						
第3回	ウェディングドレスの基礎②	ドレスのマテリアル(布地・素材)、サイズ展開、採寸、小物合わせ						
第4回	ウェディングドレスの基礎③	ドレス・ベール・パニエの扱い方、メンテナンスの重要性						
第5回	メンズコーディネート	新郎衣装の基礎知識、衣裳店について				小テスト		
第6回	フィッティング① 基礎編	ドレスの着せ方、選び方、ドレス下着の重要性など				用意: 白手袋/着付室実習		
第7回	フィッティング② 基礎編	お客様のサイズに合わないドレスの着せ方・補正のテクニック				着付室実習		
第8回	フィッティング③ 応用編	体型などの悩みに合わせたコーディネート				着付室実習		
第9回	スタイリングの実践①	ドレスショップでの接客や提案の仕方、ドレス着付けの実践				着付室実習		
第10回	スタイリングの実践②	ドレスショップでの接客や提案の仕方、ドレス着付けの実践				着付室実習		
第11回	和装コーディネート①(衣裳店見学)	和装婚礼の衣装に関する基礎知識・コーディネートの仕方				衣裳店見学(予定)		
第12回	和装コーディネート②(衣裳店見学)	列席者衣装の種類やしきたり、マナーを学ぶ				衣裳店見学(予定)		
第13回	ドレススタイリング 準備編	会場、モデル約に合わせたコーディネートを考える				グループワーク		
第14回	ドレススタイリング 実践編	実際にコーディネートをし、プレゼンテーション				グループワーク		
第15回	前期試験	前期の振り返り						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎	○		○		50%	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	○				10%	A(3):80点以上
グループワーク		○	○		○		10%	B(2):70点以上
授業態度	○		○	○			20%	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習	○	○	○		○		10%	
出席							欠格条件	
担当教員	北 昌幸			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/kita/			

科目名	ブライダルコスチュームⅡ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	主にドレススタイリスト検定取得を目指した対策授業を行う。また、前期で習得した技術・接客を活かしてお客様のドレス選びに必要な事前準備、ヒアリング内容、小物類の取り扱いなど、より実践的な対応を学ぶ。							
授業の一般目標	①ドレススタイリスト検定取得を目指す。 ②実践的なお衣裳担当の接客を学ぶ。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	衣裳の歴史、アイテム、シルエット、小物の名称を理解できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ドレスを美しく着せるためのパニエやファンデーションを使用する事が理解できる。シルエットに添った小物を選らぶ事ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	近年の流行に関心を持ち、新郎新婦の衣裳小物、スタイリングを意識できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	ドレスフィッティングの出来栄が美しいか否かの判断ができる。適切な取り扱いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	ドレススタイリスト検定を取得できる。							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	衣裳店のビジネス市場	衣裳店のビジネス市場、お客様の動向を知る						
第2回	ドレス構造とデザイン	ドレス構造とデザイン、ドレスに合わせる小物						
第3回	サイズ展開について	ドレスのサイズ展開と採寸、補正、体験によりスタイリング効果						
第4回	男性の洋装	男性洋装とサイズ展開。実践にむけてのタキシード提案方法を学ぶ						
第5回	和装について	新郎新婦の和装衣裳、列席者衣裳について						
第6回	ドレスのシルエットについて	ドレスシルエット、素材、スタイリングなどの復習。検定対策						
第7回	検定対策中間テスト	ドレススタイリスト検定の過去問より、中間テストを行う。						
第8回	ドレスの提案方法について	ドレス提案に関する再復習、検定の過去問題より対策						
第9回	論述問題について	検定で出題される、論述問題の傾向を学ぶ						
第10回	ブライダルパーティの衣裳	欧米におけるブライダルパーティについて、衣裳店実務について学ぶ。						
第11回	ドレススタイリスト検定対策	総復習を行う。						
第12回	ドレススタイリスト検定試験実施	ドレススタイリスト検定試験実施				1月0日		
第13回	ドレススタイリスト検定対策	ドレススタイリスト検定復習と答え合わせ						
第14回	期末テスト対策	期末テスト範囲に関する復習						
第15回	期末テスト	期末テスト、会場に合うドレスと小物のプレゼン						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○	◎				50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	○				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート			○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○		◎		10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ブライダルプロデュース I		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	学内でオープンキャンパスを通して模擬披露宴を行い、現場の緊張感やチームワークを学ぶ。リアルウェディング(本物の結婚式)の場合もある。また、ブライダルに携わる業務全てを学生時代から経験する事で、プランナーとして通用する人となる事を目指す							
授業の一般目標	披露宴の打合せから施行までの基本対応を学び、学生達により実施する							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	挙式や披露宴の進行やあらゆる演出について説明が出来る							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	準備及び本番の時間管理を行いながら、オリジナルの披露宴と挙式を実行する事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	授業で学んだ知識を積極的に取り入れた進行を行える							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	プロのプランナーと同等のマナーで参列者や他の学生に対応する事ができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	司会、音響、衣裳などそれぞれ与えられた役割を円滑にこなす事ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	リアルウェディング	概要説明・役割分担・完成までの準備スケジュールの確定				各担当ごとに、準備・練習を行い 都度情報の共有を行う		
第2回	リアルウェディング(準備編)	テーマについて(全体)、招待状・席札・席次等のデザインと作成						
第3回	リアルウェディング(準備編)	ドレス提案と着、ヘアメイク提案と施術、ブーケ、ヘアード提案と作成						
第4回	リアルウェディング(準備編)	進行内容確定(全体)、進行に添った司会台本の作成と練習、音響照明、カメラの練習と準備						
第5回	リアルウェディング(準備編)	会場レイアウト及び装飾の確定、装飾作成、席次表作成						
第6回	リアルウェディング(準備編)	打合せ内容の共有、当日スケジュール確定、備品類準備、当日サービス配置確定など						
第7回	リアルウェディング(打合せ編)	ゲストとの打合せ実践を行う(複数回実施予定)				レポート提出		
第8回	リアルウェディング(リハーサル編)	各パートごとの練習や準備を集約し、繰り返しリハーサルを行い情報共有、内容改善を繰り返す						
第9回	リアルウェディング(リハーサル編)	各パートごとの練習や準備を一同に集め、繰り返しリハーサルを行い情報共有、内容改善を繰り返す						
第10回	リアルウェディング(リハーサル編)	各パートごとの練習や準備を一同に集め、繰り返しリハーサルを行い情報共有、内容改善を繰り返す						
第11回	リアルウェディング(リハーサル編)	職員を招き、本番想定のリハーサルを実施						
第12回	リアルウェディング(リハーサル編)	本番に備えた最終準備・リハーサル				1月0日		
第13回	リアルウェディング実施	準備から本番、お見送りまで当日の運営を全て学生達で行う				レポート提出		
第14回								
第15回								
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 発表内容に関するレポート提出、準備姿勢、発表当日の完成度に、出席点を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀 (S): 100点~90点
小テスト								優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○	○			25	良 (B): 79点~70点
授業態度		◎	○	○			40	可 (D): 69点~60点
発表・作品	◎	○	◎	○	○		35	不可 (E): 59点以下
演習								
出席			○					失格条件
担当教員	森田 有香			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/			

科目名	ブライダルプロデュースⅡ		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	学内でリアルウェディング(本物の結婚式)を行い、現場の緊張感やチームワークを学ぶ。 また、ブライダルに携わる業務全てを学生時代から経験する事で、プランナーとして通用する人間になる							
授業の一般目標	本物の結婚式と披露宴を、打合せから施行まで全てを学生主導で行う。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	挙式や披露宴の進行やあらゆる演出について説明が出来る							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	準備及び本番の時間管理を行いながら、オリジナルの披露宴と挙式を実行する事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	授業で学んだ知識を積極的に取り入れた進行を行える							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	プロのプランナーと同等のマナーで参列者や他の学生に対応する事ができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	司会、音響、衣裳などそれぞれ与えられた役割を円滑にこなす事ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	リアルウェディング	概要説明・役割分担・完成までの準備スケジュールの確定				各担当ごとに、準備・練習を行い 都度情報の共有を行う		
第2回	リアルウェディング(準備編)	テーマについて(全体)、招待状・席札・席次等のデザインと作成						
第3回	リアルウェディング(準備編)	ドレス提案と着、ヘアメイク提案と施術、ブーケ、ヘアード提案と作成						
第4回	リアルウェディング(準備編)	進行内容確定(全体)、進行に添った司会台本の作成と練習、音響照明、カメラの練習と準備						
第5回	リアルウェディング(準備編)	会場レイアウト及び装飾の確定、装飾作成、席次表作成						
第6回	リアルウェディング(準備編)	打合せ内容の共有、当日スケジュール確定、備品類準備、当日サービス配置確定など						
第7回	リアルウェディング(打合せ編)	ゲストとの打合せ実践を行う(複数回実施予定)				レポート提出		
第8回	リアルウェディング(リハーサル編)	各パートごとの練習や準備を集約し、繰り返しリハーサルを行い情報共有、内容改善を繰り返す						
第9回	リアルウェディング(リハーサル編)	各パートごとの練習や準備を一同に集め、繰り返しリハーサルを行い情報共有、内容改善を繰り返す						
第10回	リアルウェディング(リハーサル編)	各パートごとの練習や準備を一同に集め、繰り返しリハーサルを行い情報共有、内容改善を繰り返す						
第11回	リアルウェディング(リハーサル編)	職員を招き、本番想定のリハーサルを実施						
第12回	リアルウェディング(リハーサル編)	本番に備えた最終準備・リハーサル				1月0日		
第13回	リアルウェディング実施	準備から本番、お見送りまで当日の運営を全て学生達で行う				レポート提出		
第14回								
第15回								
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 発表内容に関するレポート提出、準備姿勢、発表当日の完成度に、出席点を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀 (S):100点~90点
小テスト								優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○	○			25	良 (B):79点~70点
授業態度		◎	○	○			40	可 (D):69点~60点
発表・作品	◎	○	◎	○	○		35	不可 (E):59点以下
演習								
出席			○					失格条件
担当教員	森田 有香		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/				

科目名	セレモニープロデュース I		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	模擬挙式の企画・立案・施行の全てを学生達で行い、ブライダルに関わるスタッフのそれぞれの役割や、チームワークを学ぶ。							
授業の一般目標	模擬挙式を、ブライダル科2年生・先生方をお客様とし実施する							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	挙式の進行やあらゆる演出について説明が出来る							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	準備及び本番の時間管理を行いながら、オリジナルの挙式を実行する事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	授業で学んだ知識を積極的に取り入れた挙式を行える							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	プロのプランナーと同等のマナーで参列者や他の学生に対応する事ができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	司会、音響、衣裳などそれぞれ与えられた役割を円滑にこなす事ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回 4月14日	オリエンテーション	授業の概要、模擬挙式までのスケジュールを説明、挙式について				宿題・挙式演出ひとり5個以上		
第2回 4月21日	テーマ確定	挙式演出を持ちより、全員でテーマを決める						
第3回 5月12日	プランニングの発表・模擬挙式進行の決定	各自プランニングを発表し、その中で1つのプランニングを選び進行詳細を決定				各自テーマに沿ったプランニングを発表		
第4回 5月19日	模擬挙式準備	進行の詳細(司会台本の作成)・必要準備アイテムについて考える						
第5回 5月26日	模擬挙式準備	役割分担を行い、各自スケジュールを組み立てる、準備						
第6回 6月2日	模擬挙式準備	全体共有を行いながら役割ごとの準備・練習						
第7回 6月9日	模擬挙式準備	全体共有を行いながら役割ごとの準備・練習						
第8回 6月16日	模擬挙式準備	全体共有を行いながら役割ごとの準備・練習						
第9回 6月23日	音響・照明について	音響・照明技術について学ぶ						
第10回 6月30日	音響・照明について	音響・照明技術について学ぶ						
第11回 7月12日	音響・照明について	音響・照明技術について学ぶ						
第12回 7月14日	模擬挙式リハーサル	本番想定のリハーサルを行う						
第13回 7月21日	模擬挙式 ランスルー	本番同様 全てを通して行う						
第14回 8月31日	模擬挙式 ランスルー	本番同様 全てを通し前日準備				小テスト実施		
第15回 9月1日	期末テスト実施(模擬挙式 本番)	模擬挙式 本番				振り返りレポート提出		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 発表内容に関するレポート提出、準備姿勢、発表当日の完成度に、出席点を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀 (S):100点～90点
小テスト	◎	○	○				15	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	○			10	良 (B):79点～70点
授業態度		○	◎	◎			30	可 (D):69点～60点
発表・作品	○	○	◎	◎	◎		45	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○					
担当教員	森田 有香			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/			

科目名	セレモニープロデュースⅡ		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	模擬挙式から披露宴までの企画・立案・施行の全てを学生達で行い、ブライダルに関わるスタッフのそれぞれの役割を理解して、ブライダルプランナーになる意識を高める							
授業の一般目標	保護者や学生、内定先の企業様をお招きして、挙式から模擬披露宴を実施する。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	披露宴の進行やあらゆる演出について説明が出来る							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	準備及び本番の時間管理を行いながら、オリジナルの披露宴を実行することができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	授業で学んだ知識を積極的に取り入れた披露宴を行える							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	プロのプランナーと同等のマナーで参列者や他の学生に対応することができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	司会、音響、衣裳などそれぞれ与えられた役割を円滑にこなす事ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション テーマ・スケジュールの確定	授業の概要を説明、テーマを発表し、完成までのスケジュールを確認する				4月15日(金)		
第2回	テーマに沿ったプレゼン準備	各自テーマに合わせての披露宴プランを作成				4月22日(金)		
第3回	模擬披露宴準備	装飾や新郎新婦イメージの確定・招待状のデザイン確定				5月13日(金)		
第4回	模擬披露宴準備	招待者リストアップ・招待状の作成				5月20日(金)		
第5回	模擬披露宴準備	進行表の完成→BGM・司会進行準備を開始する				5月27日(金)		
第6回	模擬披露宴準備	会場レイアウトを確定し、装飾品や新婦のブーケなどの準備を行う				6月3日(金)		
第7回	模擬披露宴準備	各役割ごとの準備や練習を行う				6月10日(金)		
第8回	模擬披露宴準備	各役割ごとの準備や練習を行う				6月17日(金)		
第9回	模擬披露宴リハーサル	動きを確認しながらリハーサルを行う				6月24日(金)		
第10回	模擬披露宴リハーサル/模擬披露宴準備	リハーサルを通じて、改善・修正をする 各グループで役割・仕上がり再確認				7月1日(金)		
第11回	模擬披露宴リハーサル/模擬披露宴準備	リハーサルを通じて、改善・修正をする 各グループで役割確認				7月8日(金)		
第12回	模擬披露宴リハーサル	通しリハーサルを行い、動きの確認をする				7月15日(金)		
第13回	模擬披露宴リハーサル	当日スケジュールの最終確認				7月22日(金)		
第14回	模擬披露宴リハーサル	客入りから迎賓までの動きを確認しながら通しリハーサルを繰り返す				7月28日(木)		
第15回	模擬披露宴実施	模擬披露宴の実施				7月29日(金)		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 発表内容に関するレポート提出、準備姿勢、発表当日の完成度に、出席点を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					15	秀 (S):100点～90点
小テスト								優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	○			10	良 (B):79点～70点
授業態度		◎	○				30	可 (D):69点～60点
発表・作品	◎	○	◎	○	○		45	不可(E):59点以下
演習								
出席			○					
担当教員	森田 有香			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/			

科目名	レストランサービス		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	レストランサービスに携わるプロフェッショナルとして身につけるべき基本事項を学び、お客様にレストランの料理だけではなく、ホスピタリティーに感動して頂くための技能を見につける。							
授業の一般目標	授業で学んだ内容を、リアルウェディングや模擬披露宴などの実践で活用し、就職後の接客サービスを円滑に行えるようになる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	西洋料理 料飲接客サービス技法							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	レストランサービスについて自分の意見を論理的に述べることができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	日常生活の中でサービス、ホスピタリティについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	授業で学んだ知識を、模擬披露宴やリアルウェディング等の実習で活かすことができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でサービス、ホスピタリティについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	レストランサービスの基本技能を行うことができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明						
第2回	第1章 食材の基礎知識 1節～4節	食品・食材の基礎知識や調理法の特徴について学ぶ						
第3回	第1章 食材の基礎知識 5節～9節	メニュー作成の諸知識と食器用具・備品について						
第4回	第2章 接客の基本	料飲サービススタッフとしてのホスピタリティマインドについて						
第5回	第3章 宴会とレストランサービス 1節～4節	宴会の種類と運営について、またレストランにおける各種サービス方法について学ぶ						
第6回	第3章 宴会とレストランサービス 5節～9節	テーブルサービス並びにメニュー管理について						
第7回	第4章 食文化	食文化、食環境の変遷と現状について知る				レポートのプレゼン発表		
第8回	第5章 施設管理 第6章 苦情処理と遺失物の取扱い	飲食を提供する現場の設備や防火管理について、またお客様の苦情の原因と対応事例を学ぶ						
第9回	第7章 食品衛生および公衆衛生 第8章 安全衛生	各種衛生管理に関する定義と目的を理解し、食品を提供する現場の状況を理解する						
第10回	西洋料理の食卓作法							
第11回	中国料理の食卓作法							
第12回	日本料理の食卓作法							
第13回	料飲商品の基礎知識	日本茶、紅茶、珈琲など提供する商品の基礎知識を習得する						
第14回	課外実習(報告レポート提出)	レストランサービスの基本を現場のサービスマンから実際に指導を受ける				レポート提出		
第15回	期末テスト							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	◎	◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			◎	○	○		10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	フラワーコーディネイトⅠ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	結婚式や披露宴を演出するために必要なカラーフラワーの知識を理解する。フラワーアレンジメントの基本の実践とテクニックを学び、表現を身に付ける。ドレスに合ったブーケ提案、披露宴イメージにあったテーブル装飾が提案できる。							
授業の一般目標	花の種類、等基本的な知識の修得。ドレスや披露宴に合ったブーケの提案が出来る。アレンジの基本的な技術の習得。 1月実施のブライダルフラワーコーディネーター検定(BFC)3級合格を目指す							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ブライダルフラワーの基礎知識を説明し、検定を取得する。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	後期の実践的授業に向けて、会場イメージを想像し、ドレスにあったブーケデザインを考える事ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	季節ごとの花、ブライダルに合う装花について、授業以外でも主体的に学ぶ事ができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	お客様のニーズを引き出し、お客様が求める色合いやデザインを提案できるようになる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	フラワーアレンジメントの基本のテクニックを身につける事ができる。							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	卓上装花(テーブル花① ラウンド)	花の種類・花の水揚げ方法・材料・用具の種類・卓上装花制作実習						
第2回	ブーケ①ラウンド(チュールの作り方)	ブーケの種類・ブーケの花材・ドレスとブーケのバランス ブーケの用具・ブーケの制作実習						
第3回	ブートニア(リボンの作り方)	ブートニアの意味・ワイヤリング・テーピングの手法 ブートニアの制作実習						
第4回	ブライダルフラワー検定対策	フラワー検定3級対策				確認問題		
第5回	ヘアオーナメント	ヘアオーナメントの種類・花選び・ワイヤリング・テーピングの手法・ヘアオーナメントの制作実習						
第6回	ケーキ花(180度のデザイン)	ウェディングに必要な装花を学ぶ・ケーキと一体感のあるフラワーアレンジメント実習				確認問題		
第7回	卓上装花(テーブル花② ホリゾンタル)	テーブル花の種類・卓上装花の制作実習						
第8回	ブーケ②(束ねるブーケ)	ブーケの種類・スタイル・制作方法・ブーケの制作実習						
第9回	メインテーブルのアレンジメント	ウェディングの装花の種類・デモンストレーション形式の実習						
第10回	フラワー検定3級対策	過去問題など						
第11回	ブーケ③キャスケード	アートフィッシャルフラワーのワイヤリング・テーピングの手法						
第12回	ブライダルフラワーコーディネーター検定3級対策	過去問題など				1月0日		
第13回	ブライダルフラワーコーディネーター検定3級対策	過去問題など						
第14回	ブライダルフラワーコーディネーター検定3級対策	過去問題など						
第15回	ブライダルフラワーコーディネーター検定3級受験	ブライダルフラワーコーディネーター検定3級						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				20	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品		○	○				10	D:59点未満 未修得
演習								評価なし
出席			○					欠格条件
担当教員				実務経験紹介				

科目名	フラワーコーディネートⅡ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	結婚式や披露宴の、装花によるコーディネートを学ぶ。1年時に学習したフラワーアレンジの技術や知識をベースに、模擬披露宴などを通してお客様のニーズに合わせたブーケや会場装飾の提案を学ぶ実践的授業。							
授業の一般目標	シーンやドレスに合ったブーケの提案ができる。生花・アート・プリザーブドなど花材にあわせた扱いができる。またイメージに合わせたテーブル装花の提案ができ実践的な場所にて生かしていく。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	前期で習得した、基礎知識を応用する事ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	実践的授業にて、会場装飾を決定しドレスにあったブーケをデザインする事ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ゲストハウスやホテル等のディスプレイや装飾を研究し、授業以外でも主体的に学ぶ事ができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	他の学生と協力し、話し合いながらお客様が求める装飾、ブーケを提案できるようになる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	実習において学んだ技術を再現することができる。また模擬など実践授業において装飾・ブーケを作成できる。							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション・復習	授業の取り組み方について・1年次に学んだことの復習・リボン制作						
第2回	会場装花の提案	会場装花のデザインについて考える				グループワーク		
第3回	会場装花製作の実習	生花を使用し、会場装花を製作				グループワーク		
第4回	会場装飾について	会場装飾におけるアイテムについて・ワイヤリング実習						
第5回	ヘアオーナメント①	アートフラワーを使用し、花冠の製作						
第6回	ヘアオーナメント②	生花を使用し、花冠の製作						
第7回	ブーケの提案	ブーケのデザインについて考える				グループワーク		
第8回	ブーケ製作の実習	生花を使用し、ブーケ・ブートニアを製作				グループワーク		
第9回	プリザーブドフラワーについて①	プリザーブドフラワーの取り扱い方を学ぶ						
第10回	プリザーブドフラワーについて②	プリザーブドフラワーを使った実習						
第11回	フラワーアレンジ応用	贈呈花束など「ギフト」としてのアレンジについて学ぶ						
第12回	期末試験対策(総復習)	筆記・実技における総復習				1月0日		
第13回	期末試験	期末試験実施						
第14回	試験返却・解説	試験返却・解説・ワイヤリングを用いたアレンジメント製作						
第15回	Welcomeスペース装飾について	結婚式でWelcomeスペースに飾れるアイテムの製作						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎			◎		30	S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度	○	○	◎	◎	○		50	C(1):60点以上
発表・作品	○		◎		◎		20	D:59点未満 未修得
演習								評価なし
出席								欠格条件
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ブライダルプランニング演習		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	プランナーにおける結婚式当日までの打ち合わせの流れを知る。また実際に打ち合わせ内容について説明ができるようにロープレを実施する。							
授業の一般目標	プランナーにおける結婚式当日までの打ち合わせの流れを知り、プランニング能力の向上を図る。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	結婚式や披露宴においてプランナーとして必要な対応や準備手順がわかる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ブライダルプランナーに関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	お客様に対して打ち合わせの内容について理解できるように説明ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ガイダンス	結婚式のイメージ・結婚式という商品について・授業概要						
第2回	結婚式当日の進行について	進行表について内容を読み取れるようにする・1日のタイムスケジュール						
第3回	結婚式の準備について	結婚式本番までの打ち合わせの流れについて						
第4回	打合せの基礎①	招待状とは・招待状の内容について知る						
第5回	打合せの演習	招待状打ち合わせの演習						
第6回	打合せの基礎②	席次表とは・席次表の内容について知る						
第7回	打合せの演習	席次表打ち合わせの演習						
第8回	打合せの基礎③	進行・演出の内容について知る						
第9回	打合せの演習	進行に関する打ち合わせの演習						
第10回	ブライダルアイテム	ブライダルアイテムについての理解を深める						
第11回	イメージトレーニング①	様々なテーマをピックアップし、どのような提案ができるか話し合う				グループワーク		
第12回	イメージトレーニング②	様々なテーマをピックアップし、どのような提案ができるか話し合う				1月0日		
第13回	プランニング①	実際にテーマに沿って結婚式をプランニングする				グループワーク		
第14回	プランニング②	実際にテーマに沿って結婚式をプランニングする				グループワーク		
第15回	新規接客を受ける	2年生の新規接客をお客様役として接客を受ける・振り返り						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 研修内容に関するレポート提出、準備姿勢、研修に取り組む姿勢に、出席点を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎		○	◎		30	秀 (S):100点～90点
小テスト		○	◎				20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点～70点
授業態度	○		◎	◎	○		20%	可 (D):69点～60点
発表・作品								不可(E):59点以下
演習	◎	○	◎	○	○		30	
出席			○					欠格条件
担当教員	森田 有香		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/				

科目名	ブライダル広告研究		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ブライダル業界で大きく費用のかかる宣伝広告費を理解しながら、マーケティング手法を学びリアルウェディングのリーフを作成する事で集客につなげる。							
授業の一般目標	宣伝広告費を理解する。ビジネスフレームワークを理解する。リーフ作りに必要なキャッチコピーの作り方を理解する。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	学んだ事を説明できる。2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ブライダル業界の広告について関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	ブライダル業界の広告について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	ブライダル業界の広告宣伝費を理解する	ブライダル業界の広告宣伝費はどのくらいかかるのか？大手企業の広告宣伝費を参考に売り上げから広告宣伝費の割合を知る						
第2回	広告と宣伝の違いを理解する	広告と宣伝の違いを理解し、どのように広告宣伝をしていけばリアルウェディングの顧客を集客できるかプレストディスカッションを行う						
第3回	環境やサービス内容を分析する①	身近な題材を用いてSWOT分析を理解する						
第4回	環境やサービス内容を分析する②	SWOT分析を理解し現在の取り巻く環境やリアルウェディングの強み弱みを改めて分析する						
第5回	顧客について分析する①	身近な題材を用いてペルソナを理解し顧客を分析する						
第6回	顧客について分析する②	リアルウェディングを希望する顧客はどのような顧客かペルソナを用いて分析する						
第7回	キャッチコピーを考える①	あらゆる企業の有名なキャッチコピーを知り、キャッチコピーの考え方作り方を学ぶ						
第8回	キャッチコピーを考える②	実際に例題を用いてキャッチコピーを作成する						
第9回	テキスト構成を考える	見やすいフォント、テキストの構成を学ぶ						
第10回	リーフ作成のための素材集め	リーフ作成に必要な素材を集める						
第11回	リーフ作成のための素材集め	リーフ作成に必要な素材を集める						
第12回	リアルウェディングリーフの作成	リーフ作成				1月0日		
第13回	リアルウェディングリーフの作成	リーフ作成						
第14回	リアルウェディングリーフの作成	リーフ作成						
第15回	リアルウェディングリーフの作成	リーフ作成						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	國定 章子			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/kunisada/			

科目名	ブライダル映像基礎		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ブライダル業界におけるデザイン商品を理解し、またデザインツールの取り扱い方の知識を学ぶことでお客様とコミュニケーションを図ることができるようになる。イラストやデザインなど表現・提案するための基礎を学ぶ。							
授業の一般目標	ウェディングシーンにおけるデザインをPC上で取り扱うことができるようになり、印刷物・ウェディングアイテムを利用した演出などを学ぶ。イメージを可視化し提案する基礎技術を習得する。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	Illustrator しっかり入門							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	学んだ事を説明できる。学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ウェディングで使用されるデザインに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダルデザインについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	パソコンでのデザイン制作・編集ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ブライダルで扱う商品・デザイン制作の基礎知識①	ブライダルで扱うデザイン商品、アイテムを知る・Illustratorの用途と基本操作						
第2回	デザイン制作の基礎知識②	Illustratorを用いたデザイン制作 (ワークスペース設定・基本図形の描画・アートボードと座標・ツールとショートカット)						
第3回	デザイン制作の基礎知識③	Illustratorを用いたデザイン制作 (オブジェクトの基本編集と配置、レイヤーの知識)						
第4回	デザイン制作の基礎知識④	Illustratorを用いたデザイン制作 (オブジェクトの整列と分布、グリッドとスナップ、ガイド)						
第5回	デザイン制作の基礎知識⑤	Illustratorを用いたデザイン制作 (オブジェクトの合成、クリッピングマスク)						
第6回	デザイン制作の基礎知識⑥	Illustratorを用いたデザイン制作 (テキスト挿入とデザイン編集、背景パターンの編集)						
第7回	デザイン制作の基礎知識⑦	Illustratorを用いたデザイン制作 (ペンツールによるベジェ曲線、フリーハンドイラストのデジタル化)						
第8回	デザイン制作の実践・応用①	Illustratorを用いたデザイン制作 (地図、構内案内、会場案内図)						
第9回	デザイン制作の実践・応用②	Illustratorを用いたデザイン制作 (席札、受付札、新郎新婦札、エスコートカード)						
第10回	デザイン制作の実践・応用③	Illustratorを用いたデザイン制作 (招待状)						
第11回	デザイン制作の実践・応用④	Illustratorを用いたデザイン制作 (タイムスケジュール、プロフィール、席次表)						
第12回	デザイン制作の実践・応用⑤	Illustratorを用いたデザイン制作 (ウェルカムボード、ポストカード)						
第13回	デザイン制作の実践・応用⑥	Illustratorを用いたデザイン制作 (リーフレットデザイン)						
第14回	デザイン制作の実践・制作発表	Illustratorを用いたデザイン制作 (制作発表・コンセプトとテーマ・アピールポイント)						
第15回	デザイン制作の実践・期末課題	Illustratorを用いたデザイン制作 (総合演習・期末課題)						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	S(4):90点以上
小テスト	◎				○		20	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	○	◎	◎		○		20	B(2):70点以上
授業態度	○		◎	◎			20	C(1):60点以上
発表・作品	○	◎	◎	○	○		40	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席							欠格条件	
担当教員	福永			実務経験紹介				

科目名	イラストデッサン		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ブライダル業界における映像商品を理解し、また画像・映像の取り扱い方の知識を学ぶことでお客様とコミュニケーションを図ることができるようになる。その上で、時代に合わせたSNS発信についても運用マナーの理解を深め、SNSによる情報発信ができるようになる。							
授業の一般目標	ウェディングシーンにおける映像・動画をPC上で取り扱うことができるようになり、映像・動画を利用した演出などを学ぶ。さらには、応用としてSNS上でも取り扱えるようにする。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	学んだ事を説明できる。学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べるができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ウェディングで使用される映像に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダル映像について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	パソコンでの動画制作・画像編集ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ブライダルで扱う商品・動画編集の基礎知識①	ブライダルで扱う商品を知る・デジタルデータの基礎知識・filmora基本操作						
第2回	動画編集の基礎知識②	filmoraを用いた動画編集 (演出用ムービー制作・メディアのインポート・映像とBGMの構成編集・ツールとショートカット)						
第3回	動画編集の基礎知識③	filmoraを用いた動画編集 (演出用ムービー制作・タイトルとエンドロール・テキスト編集・トランジション)						
第4回	動画編集の基礎知識④	filmoraを用いた動画編集 (演出用ムービー制作・クロップとズーム・エフェクト・分割表示・エクスポート)						
第5回	動画編集の実践制作①(演出用ムービー)	filmoraを用いた動画編集 (OP/ED/プロフィールムービー制作・スナップショットの応用・BGMと映像の応用演出)						
第6回	動画編集の実践制作②(演出用ムービー)	filmoraを用いた動画編集 (OP/ED/プロフィールムービー制作・外部機器やフリー素材のインポート方法)						
第7回	動画編集の実践制作③(演出用ムービー)	filmoraを用いた動画編集 (OP/ED/プロフィールムービー制作・合成と変形・色とモーションの設定)						
第8回	動画編集の実践制作④(演出用ムービー)	filmoraを用いた動画編集 (OP/ED/プロフィールムービー制作・エフェクト、エレメントの挿入)						
第9回	動画編集の実践制作⑤(演出用ムービー)	filmoraを用いた動画編集 (OP/ED/プロフィールムービー制作・素材データとリンクファイルについて)						
第10回	動画編集の実践制作⑥(演出用ムービー)	filmoraを用いた動画編集 (OP/ED/プロフィールムービー制作・フレームレートと解像度)						
第11回	動画編集の実践制作⑦(記録用ムービー)	filmoraを用いた動画編集 (記録用ムービー制作・動画素材の編集方法・映像と音声の分離編集)						
第12回	動画編集の実践制作⑧(記録用ムービー)	filmoraを用いた動画編集 (記録用ムービー制作・DVD等への出力方法・制作発表・合評)						
第13回	動画編集の実践制作⑨(SNSへの運用)	filmoraを用いた動画編集 (サムネイル制作・テキストの高度編集・画像編集の基礎知識)						
第14回	動画編集の実践制作⑩(SNSへの運用)	アカウントの知識・プライバシーの問題・運用ルール						
第15回	動画編集の実践制作・期末課題	filmoraを用いた動画編集 (総合演習・制作課題)						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	S(4):90点以上
小テスト	◎				○		20	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	○	◎	◎		○		20	B(2):70点以上
授業態度	○		◎	◎			20	C(1):60点以上
発表・作品	○	◎	◎	○	○		40	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席							欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	インターンシップ		単位数		科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	鉛筆の削り方・持ち方・描き方・構図・などのデッサンの基本を習得し、人の顔やスタイルなどスケッチ的なスタイル画へ発展させる。 イラストやデザインなど表現・提案するための基礎を学ぶ。							
授業の一般目標	1. 自らの専攻やキャリアに関連した就業体験によって高い職業意識を育成する 2. 実社会に触れる事によって学習意欲を向上させる 3. 人間性を高め、基本的な生活習慣を身に付ける							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ブライダル業務全般を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	結婚式や披露宴において必要な準備や手順がわかる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	実務研修の心構え	インターンシップの目的、参加の心構え、ビジネスマナー講習などを中心に、事前準備学習を行なう。						
第2回	実務研修の依頼	就職を希望する企業・サロンの調査法。インターンシップの依頼(電話・依頼文作成)、企業等とのマッチング、日程調整						
第3回	挨拶状・レポート作成	受け入れ企業の決定に基き必要書類などの作成を行いインターンシップを有意義なものにする						
第4回	実務研修	受入れ事業所で就業体験(実習日誌)						
第5回								
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回	インターンシップ報告会	インターンシップを通じて得た知見や経験を受講者全員で共有化することを目的に体験報告を行なう。それぞれが就業体験を通じて得たものを自己定着させる。また、体験報告をレポートにまとめ、インターンシップ報告書を作成する。						
第15回						1月0日		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 研修内容に関するレポート提出、準備姿勢、研修に取り組む姿勢に、出席点を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート	◎	◎	○	◎			30	B(2):70点以上
授業態度			○	○			15	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習	◎	○	◎				55	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	インターンシップⅡ		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ブライダル業界研究で得た知識をもとにインターンシップ依頼、インターンシップリテラシーを学び、事前準備学習を行う。インターンシップを通じて得た経験を体験報告をレポートにまとめ、報告書を作成する。							
授業の一般目標	1. 自らの専攻やキャリアに関連した就業体験によって高い職業意識を育成する 2. 実社会に触れる事によって学習意欲を向上させる 3. 人間性を高め、基本的な生活習慣を身に付ける							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ブライダル業務全般を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	結婚式や披露宴において必要な準備や手順がわかる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	実務研修の心構え	インターンシップの目的、参加の心構え、ビジネスマナー講習などを中心に、事前準備学習を行なう。						
第2回	実務研修の依頼	就職を希望する企業・サロンの調査法。インターンシップの依頼(電話・依頼文作成)、企業等とのマッチング、日程調整						
第3回	挨拶状・レポート作成	受け入れ企業の決定に基き必要書類などの作成を行いインターンシップを有意義なものにする						
第4回	実務研修	受入れ事業所で就業体験(実習日誌)						
第5回								
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回	インターンシップ報告会	インターンシップを通じて得た知見や経験を受講者全員で共有化することを目的に体験報告を行なう。それぞれが就業体験を通じて得たものを自己定着させる。また、体験報告をレポートにまとめ、インターンシップ報告書を作成する。						
第15回						1月0日		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 研修内容に関するレポート提出、準備姿勢、研修に取り組む姿勢に、出席点を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート	◎	◎	○	◎			30	B(2):70点以上
授業態度			○	○			15	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習	◎	○	◎				55	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	色彩学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	色は生活の様々な分野にかかわっている。色彩に関する基本的なことを学習し人の心理面にどのような働きかけをすりのかを知り効果的に使用していく。色の分類・効果・演出と体系的に学習していく。							
授業の一般目標	テキストやカラーチャートなどを使用して色彩の分類・効果的な選択ができるようになる。パーソナルカラー分析を行い目安としてパーソナルカラー検定3級を受験する。さらにブライダルにおいて会場やテーブル・衣裳などの選択の選択の感性を磨く							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	パーソナルカラー検定公式テキスト							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	パーソナルカラー検定3級に合格できる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	色彩学とは	色彩学を学ぶ意義について						
第2回	四季の自然を表わす色	春/夏/秋/冬に関わる色について						
第3回	日本の色の歴史	特徴的な伝統色						
第4回	色と生活	周りを取り巻く様々な色、衣食住						
第5回	色の種類	赤・橙・黄・緑・青・紫・白黒・グレー系統						
第6回	色の仕組み	物体色と光源色、無彩色と有彩色						
第7回	CUS表色系	カラーアンダートーンシステム						
第8回	色の三属性と対比現象	明度・彩度・色相						
第9回	色の感情効果	明度・彩度・色相に関する心理効果						
第10回	cus配色効果	アンダートーンとは						
第11回	ファッション概論	基本的な配色テクニック						
第12回	ブライダルと色彩	ウエディングと配色調和				1月0日		
第13回	パーソナルカラー	肌色のしくみ						
第14回	パーソナルカラーの特徴	人の特徴によるアンダートーン パーソナルカラー						
第15回	検定対策	パーソナルカラー3級検定試験対策						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	色彩学Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	色は生活の様々な分野にかかわっている。色彩に関する基本的なことを学習し人の心理面にどのような働きかけをすりのかを知り効果的に使用していく。色の分類・効果・演出と体系的に学習していく。							
授業の一般目標	テキストやカラーチャートなどを使用して色彩の分類・効果的な選択ができるようになる。パーソナルカラー分析を行い目安としてパーソナルカラー検定3級を受験する。さらにプライダルにおいて会場やテーブル・衣裳などの選択の選択の感性を磨く							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	色彩配色テキストⅡ							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	色彩学Ⅰの復習	色彩学とは、CUSとは						
第2回	配色 Basic①	色相配色(同系・類系・反対)				配色練習①		
第3回	配色 Basic②	色調配色(同系・類系・反対)				配色練習②		
第4回	配色 Advance①	色相色調配色(1色、2色)				配色練習③		
第5回	配色 Advance②	色相色調配色(3色、4色)				配色練習④		
第6回	配色 Advance③	色相色調配色(5色、6色)				配色練習⑤		
第7回	配色 Advance④	アンダートーン配色				配色練習⑥		
第8回	配色のテクニック	グラデーション・コントラスト・アクセント・リズム・バランス				配色練習⑦		
第9回	イメージと配色	色とことばとイメージ表現・配色				配色練習⑧		
第10回	プロデュース①	お互いを分析し配色提案				配色練習⑨		
第11回	プロデュース②	相手から出されたテーマに沿った配色を提案				配色練習⑩		
第12回	トータルイメージ①	空間配色・演出				配色練習⑪		
第13回	トータルイメージ②	人と空間の配色・演出				配色練習⑫		
第14回	トータルイメージ③	総合イメージ作り				配色練習⑬		
第15回	期末テスト	色彩学Ⅱ 試験、質疑応答						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ヘアアレンジ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	就職活動や就職後に役立つ為、自身の夜会巻やシニヨン等を短時間で美しく仕上げるようになる。 また、新婦様のヘアスタイルについていくつかのパターンを習得しご提案可能となるよう、技術を習得する。 ウィッグ使用の実技中心となる。							
授業の一般目標	就職活動～卒業後の現場でのセルフヘアセット技術の習得。及び、新婦ヘアスタイルの基本を習得							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト不要・別途ヘア小物必須							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ヘアアレンジに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でヘアアレンジについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	セルフで夜会巻きができる・対人に対してヘアアレンジができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	基礎知識・夜会巻きデモンストレーション	道具類の配布 道具類の種類と使用法・頭部の名称・黒ゴムの前準備・ブラッシング・一束ウィッグを使用した夜会巻きのデモンストレーション						
第2回	身だしなみの為のアップスタイル	自分で出来るアップスタイル・夜会巻き・ブロッキング						
第3回	身だしなみの為のアップスタイル	自分で出来るアップス・タイトル・夜会巻き・ブロッキング						
第4回	基礎技術 (基礎1)	基本の毛束の持ち方と指使いを習得・表編み・裏編み ロープ編み・フィッシュボーン						
第5回	基礎技術 (編み込み)	各セクションより髪をすくい取り編み込んでいく・片側表三つ編み込み 両側編み込み・サイドのまとめ方						
第6回	基礎技術 (基礎2)	各セクションより髪をすくい取り編み込んでいく・片側表三つ編み込み 両側編み込み・ネープのまとめ方・アイロン						
第7回	基礎技術 (基礎3)	全体のまとめ方・アイロンの使い方・アイロンの巻き方						
第8回	基礎技術 (基礎4)	全体のまとめ方・ホットカーラーの巻き方						
第9回	応用技術1	アレンジ1						
第10回	応用技術2	アレンジ2						
第11回	応用技術3	アレンジ3						
第12回	応用技術4	アレンジ4				1月0日		
第13回	アップスタイルの作製	自分でデザインしてアレンジする1				衣装や髪質にあわせてデザイン		
第14回	アップスタイルの作製	自分でデザインしてアレンジする2				衣装や髪質にあわせてデザイン		
第15回	期末テスト	ヘアアレンジテスト						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 作品内容、準備姿勢、出席点を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎			◎		70	S(4):90点以上
小テスト	◎				◎		10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度	○		◎	◎			20	C(1):60点以上
発表・作品								D:59点未満 未修得
演習								
出席			○					欠格条件
担当教員			実務経験紹介					

科目名	ブライダルヘアメイク		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	婚礼における洋装と和装の際のメイクの違いについて学び、また限られた時間内でいかにアレンジの幅を広げることができるか実践を通し学ぶ。							
授業の一般目標	ブライダルにおけるヘア・メイクなどの知識や技術を習得する。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ブライダルヘアメイクに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダルヘアメイクについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	限られた時間内で、幅広いアレンジができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	トータル・ヘアメイク	授業に必要なアイテムチェック・技術チェック・相モデルで骨格やパーツなどの補正				ヘアアレンジで使用した一式 メイク道具一式 持参		
第2回	トータル・ヘアメイク	相モデル30分フルメイク カウンセリングとアップスタイル2パターン						
第3回	トータル・ヘアメイク	相モデル30分フルメイク 和装と洋装のメイクの違い						
第4回	トータル・ヘアメイク	相モデルで、前回とは違うペアーで、オーダー通りにヘアメイクを仕上げる						
第5回	トータル・ヘアメイク	相モデルで、前回とは違うペアーで和装のオーダー通りにヘアメイクを仕上げる アテンドの知識						
第6回	トータル・ヘアメイク	洋装から和装へのヘアメイクチェンジと衣装チェンジについて						
第7回	トータル・ヘアメイク	相モデルで、洋装→和装のヘアメイクのクイックチェンジを行う						
第8回	トータル・ヘアメイク	和装から和装へのヘアメイクチェンジと衣装チェンジについて						
第9回	トータル・ヘアメイク	相モデルで、和装→洋装のヘアメイクのクイックチェンジを行う				着付室実習		
第10回	トータル・ヘアメイク	衣装の似合わせとフィッティング				着付室実習		
第11回	トータル・ヘアメイク	ショー用ヘアメイクアレンジ①				着付室実習		
第12回	トータル・ヘアメイク	ショー用ヘアメイクアレンジ①				着付室実習		
第13回	トータル・ヘアメイク	相モデルの試験対策準備: 衣裳とヘアメイクデザインを考える				着付室実習		
第14回	トータル・ヘアメイク	作品制作(相モデルで)				着付室実習		
第15回	トータル・ヘアメイク	作品制作(相モデルで)				着付室実習		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 作品内容、準備姿勢、出席点を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート							10	B(2):70点以上
授業態度			◎				10	C(1):60点以上
発表・作品	◎	○					50	D:59点未満 未修得
演習	◎	○	◎				30	
出席			◎	◎				欠格条件
担当教員				実務経験紹介				

科目名	着付け・作法	単位数	2	科目コード				
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	留袖の着付けを通して帯結び(お太鼓・飾り結び)が数種できるように実践的な授業。和装の名称を覚える。新郎新婦の婚礼和装の基本を知識として学ぶ。							
授業の一般目標	ブライダルの現場ではお直しや留袖の着付けを求められことも多いが対応することができるようになる。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べるができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	着付けに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で着付けについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	与えられた時間内で、的確な知識を持って留袖着付けができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1週	着物について知ろう・畳み方	和室でのあいさつ・着物のたたみ方(本畳み、夜具畳み、長襦袢の畳み方、衿とじ)			裁縫セット タオル5枚・長襦袢 マスキングテープ持参			
第2週	長襦袢着付方①	身体に合った補正の仕方(畳み方練習)・長襦袢着付						
第3週	長襦袢着付②	補正～長襦袢着付(相モデル)						
第4週	留袖着付①	補正～長襦袢～留袖着付(相モデル)						
第5週	留袖着付②	補正～長襦袢～留袖着付(相モデル)						
第6週	留袖の帯結び①	長襦袢着付け(相モデル)・留袖着付二重太鼓						
第7週	留袖の着付	帯結びの基本としてお太鼓の結び方(相モデル)						
第8週	留袖の帯結び②	帯結びの基本としてお太鼓の結び方(相モデル)						
第9週	新婦着付①	新婦和装着付①						
第10週	新婦着付②	新婦和装着付②						
第11週	新郎着付①	新郎和装着付①						
第12週	新郎着付②	新郎和装着付②						
第13週	振袖着付け方・課題練習	振袖の着付け方でモンストレーションと期末試験課題の練習				浴衣持参		
第14週	留袖着付	期末試験課題練習				裁縫セット タオル5枚・長襦袢 マスキングテープ持参		
第15週	期末試験	指導員の指定する時間内に着つけられるようになる						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○	◎				20	S(4):90点以上
小テスト								A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度			◎	○			20	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習	◎	○	◎				60	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	メイクアップ基礎		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	JMA検定テキストに沿い、就職活動や現場に出た際にお客様に好印象を与えるセルフメイクのテクニックを習得する。技術の他、道具の扱い方の知識はもちろん、セルフメイクに限らず、相モデルに対してのメイクテクニックを習得する。							
授業の一般目標	日本メイクアップ技術検定3級の取得 スキンケア～ベースメイクのテクニックを習得する セルフメイク、相モデルメイクができる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	日本メイクアップ技術検定3級・2級公式テキスト・メイク道具セット・(ウェットティッシュ・綿棒・BOXティッシュ)は各自準備							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	メイク基礎に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でメイク基礎について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 就職活動用メイク・プランナーメイクなど場面に応じたセルフメイクができる 2. プランナーメイクを相モデルに対してできる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1週	オリエンテーション	授業の注意事項 道具の点検 授業の目標 セッティング 身だしなみ				テキスト・メイク道具を取りに行く		
第2週	道具の置き方 ポイントクレンジング	道具セッティング ポイントクレンジング練習						
第3週	全体クレンジング～乳液	ポイントクレンジング復習 全体クレンジング～乳液						
第4週	スキンケア通し練習	スキンケア通し ベースメイク理論						
第5週	ベースメイク実習	コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラ・フェイスパウダー						
第6週	チーク ローライト ハイライト	チーク ローライト ハイライト実習						
第7週	マッサージ・3級通し	コットンパック 乳液マッサージ 3級通し						
第8週	タイム計測 チークのバリエーション	3級通し チークのバリエーションについて						
第9週	タイム計測 アイブロー基礎	3級通し アイブローについて(模擬試験)				オンデマンド配信		
第10週	タイム計測 アイメイク基礎 リップ	3級通し アイメイク・リップ基礎(模擬試験)				リアル授業において		
第11週	日本メイクアップ技術検定3級試験	日本メイクアップ技術検定3級試験				校内にて実施		
第12週	就活メイク	就活メイクのポイント セルフメイクレッスン				1月0日		
第13週	就活メイク	就活メイクを相モデルでポイント練習						
第14週	ビジネスメイク(プランナー)	ブライダル業界にあわせたメイク						
第15週	期末試験	プランナーメイクを相モデルにて行う						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎				◎		70	S(4):90点以上
小テスト(模擬テスト)	○		○		◎		10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	○			◎	◎		10	B(2):70点以上
授業態度		○	◎	◎	◎		10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	メイクセラピー		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	花嫁様の披露宴での心理的なストレスを和らげるメイクセラピーの技術を身につける。							
授業の一般目標	メイクセラピスト2級合格を目指し、セラピストの知識として花嫁様に傾聴・アドバイスができる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	メイクセラピーに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でメイクセラピーについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1週	メイクセラピーの意味	オリエンテーション						
第2週	メイクセラピーにおける顔の成り立ち	円心・求心						
第3週	メイクセラピーにおける顔の成り立ち	円心・求心が他人から見た時の印象						
第4週	自分の顔分析	相モデルにて顔の分析						
第5週	アイシャドーなどの使い方	円心・求心をどのように矯正するか						
第6週	カラーが人に与える印象	色の効果や光の効果						
第7週	カラーの効果	カラーが人に与える印象、その使い方						
第8週	印象分析	印象をコントロールし自分のコンプレックスを克服する						
第9週	傾聴の意味	クライアントの話の聴き方。その動作や実際の動き						
第10週	心理学の基本的な知識	罪悪感など人間の心理を学び、クライアントの軽重ができる						
第11週	リップやチーク、アイシャドウの色の持つ効果	リップ・アイシャドー・チークなど色の使い方で印象管理						
第12週	メイク実習	メイクセラピーの実習(メイク)				1月0日		
第13週	メイク実習	メイクセラピーの実習(メイク)						
第14週	試験直前模試	筆記とメイク実習						
第15週	期末試験	全体の期末試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福本 真弓			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukumoto/			

科目名	ビジネス基礎 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	会社とはどのような組織か、そこで行われている仕事とはどのような内容かを学ぶ。							
授業の一般目標	秘書検定3級(6月受験)の合格。ビジネスパーソンとしての最低限のマナーを身に付ける。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	秘書検定実問題集3級							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	秘書検定3級合格の知識を習得							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	秘書業務を学んだうえで社会人としてどのように活用できるか判断できる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ビジネススキルを理解した上で模擬挙式に活用する事が出来る							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	検定の概要	授業の進め方 検定概要の確認				秘書検定3級対策		
第2回	必要とされる資質 秘書の心構え 必要な条件	秘書業務の心構え・身だしなみ・第一印象 心遣い、守秘義務、社内連絡、社外連絡				秘書検定3級対策		
第3回	職務知識 秘書の役割と機能 職務	秘書の分類 心構え 定型業務				秘書検定3級対策		
第4回	一般知識 企業の基礎知識	企業の目的 会社の形態と会社の種類 組織と機能 経営管理				秘書検定3級対策		
第5回	企業の組織と活動	人事 労務 会計 財務 マーケティング				秘書検定3級対策		
第6回	社会常識	基礎用語 上位s機としての片仮名語				秘書検定3級対策		
第7回	人間関係と話し方	人間関係と話し方 人間関係の重要性 挨拶 話し方と人間関係				秘書検定3級対策		
第8回	話し方聞き方の応用	話し方聞き方の応用 情報伝達の仕方 報告の仕方				秘書検定3級対策		
第9回	電話対応	電話対応 電話のマナーと話し方の注意点				秘書検定3級対策		
第10回	接遇	接遇の心構え アポイント調整 受付マナー 案内マナー				秘書検定3級対策		
第11回	交際	慶事の知識とマナー 食事のマナー				秘書検定3級対策		
第12回	会議と秘書	会議の目的と種類 会議の種類				1月0日		
第13回	ビジネス文書と秘書	社内文書の基礎知識 種類と形式 慣用表現 文書管理				秘書検定3級対策		
第14回	資料管理	ファイリングの基礎知識 名刺の整理 日程管理				秘書検定3級対策		
第15回	日程管理 オフィス管理	日程管理と予定表 予定表の作成				秘書検定3級対策		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	森田 有香			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/			

科目名	ビジネス基礎Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	会社とはどのような組織か、そこで行われている仕事とはどのような内容かを学ぶ。							
授業の一般目標	秘書検定2級(1月受験)の合格。ビジネスパーソンとしての最低限のマナーを身に付ける。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	秘書検定実問題集2級							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	秘書検定2級合格の知識を習得							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	秘書業務を学んだうえで社会人としてどのように活用できるか判断できる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ビジネススキルを理解した上で模擬挙式に活用する事が出来る							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	3級試験範囲の復習	3級試験範囲の復習						
第2回	3級試験範囲の復習	3級試験範囲の復習						
第3回	模擬試験実施	過去問の実施						
第4回	必要とされる資質	秘書の心構え 秘書に必要な条件						
第5回	職務知識	秘書の役割と機能 秘書の職務						
第6回	一般知識 企業と経営	資本と経営 企業の組織形態 経営管理						
第7回	一般知識 企業の活動	人事労務 会計財務 手形小切手 税務 生産管理						
第8回	社会常識	情報処理とニューメディア 常識としての基礎用語略語カタカナ語						
第9回	マナー 接遇	人間関係と話し方・聞き方 基礎応用						
第10回	電話応対と接遇 交際	電話応対の基本 接遇用語の使い方 慶事の対応 パーティ等の知識						
第11回	会議と秘書	会議の知識 準備設営 会議中の秘書の仕事						
第12回	ビジネス文書の作成 文書の取り扱い	社内文書の種類と形式 社交文書 ビジネス文書の慣用語 メモの取り方				1月0日		
第13回	文書 資料管理	ファイリングの基本 保管方法 名刺の整理 情報収集と管理						
第14回	日程管理とオフィス管理	予定表の種類と記入要項 事務用品の種類						
第15回	模擬試験の実施	秘書検定2級の過去問実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	森田 有香			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/			

科目名	硬筆書写 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ブライダル業界で必要な美しい手書き文字を身に付け、お客様への手紙、商談のメモ等、字で信頼して頂くために、硬筆書写の基礎的な技術及び知識をもって書くことが出来るようになる。また就職活動時に正しい字で履歴書が書けるようになる。6月に硬筆書写検定3級合格を目指す。							
授業の一般目標	社会人として恥ずかしくない字が書ける具体的な尺度になる硬筆書写検定3級合格にむけた学び							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	ペン習字ハンドブック ・ 3級合格のポイント(令和3年度版)/ 0.5ゲルインクボールペン・油性マジック・定規・シャーペン・消しゴム・B5サイズ無地レポート用紙							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	学んだことを踏まえ、自ら考え判断することが出来る							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	どんな字でも美しく書くために関心を広げ、問題意識を高めることが出来る							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	説明をよく聞き、落ち着いて取り組めることが出来る							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	授業で伝えている内容を明確に表現できる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション・文字の基礎・基本 ①	美しい文字を書く基本を学ぶ。 用具、テキスト、ドリルの活用方法、学習計画が理解できる						
第2回	文字の基礎・基本 ②	楷書について						
第3回	文字の基礎・基本 ③	平仮名・片仮名について①						
第4回	文字の基礎・基本 ④	平仮名・片仮名について②						
第5回	文字の基礎・基本 ⑤	速書き・横書きの書き方						
第6回	文字の基礎・基本 ⑥	行書について①						
第7回	文字の基礎・基本 ⑦	行書について②						
第8回	実践演習 ①	縦書き・葉書宛名書きの書き方						
第9回	実践演習 ②	掲示文の書き方						
第10回	硬筆書写 3級検定試験	検定試験				校内受験		
第11回	添え状・履歴書・お礼状の作成 ①	就職活動・インターンシップに向けた実践演習						
第12回	添え状・履歴書・お礼状の作成 ②	就職活動・インターンシップに向けた実践演習				1月0日		
第13回	添え状・履歴書・お礼状の作成 ③	就職活動・インターンシップに向けた実践演習						
第14回	総復習	授業で学んだことに対する総復習						
第15回	前期期末試験	期末テスト						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎			◎		20	S(4):90点以上
小テスト							評価なし	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	◎		○				20	B(2):70点以上
授業態度			◎	◎			30	C(1):60点以上
発表・作品(検定試験結果)	◎	◎			◎		30	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席							欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	硬筆書写Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ブライダル業界に必要な美しい手書き文字を身に付け、お客様への手紙、商談のメモ等、字で信頼して頂くために、硬筆書写の基礎的な技術及び知識をもって書くことが出来るようになる。2月に準2級の硬筆書写検定2級合格を目指す							
授業の一般目標	硬筆書写3級合格。美しい文字を書く基本を学ぶ。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	美容に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で美容について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	はがきの宛名書き	けいの無いはがきにそれぞれの部分、書く位置、文字の大きさ、行間を考え宛名を書くことができる				3級の学習		
第2回	掲示を書く	適当な大きさの字で位置や行間の空き等全体から見た構成に注意し、体裁よく掲示を書くことができる				3級の学習		
第3回	漢字の部分の名称	漢字を構成している名称を理解する				3級の学習		
第4回	常用漢字の筆順	常用漢字全般の筆順を覚えることができる				3級の学習		
第5回	草書を読む	平易な草書体の漢字を読むことができる				3級の学習		
第6回	常用漢字の字体	誤字と不適当な字を指摘し、正しく書き留めることができる				3級の学習		
第7回	添え状、履歴書、お礼状の作成①	添え状、履歴書、お礼状を書く上での留意点を学び実際に作成する						
第8回	添え状、履歴書、お礼状の作成①	添え状、履歴書、お礼状を書く上での留意点を学び実際に作成する						
第9回	速書き	一定の時間内に、一定の文章を美しく正しく書き終える事ができる				2級の学習		
第10回	漢字(楷・行)を大きく書く	漢字の楷書と行書の基本を理解し書くことができる				2級の学習		
第11回	縦書き(漢字と仮名交じり文)	ボールペン・サインペンで45字ほどの漢字仮名交じり文を、行の幅1.7センチの縦けいのあるところに行書で書くことができる				2級の学習		
第12回	横書き(漢字仮名交じり文)	片仮名、数字、ローマ字が混ざっている60字ぐらいの文を、感じは楷書で、数字やローマ字は似合うもので横書きで書くことが出来る				1月0日		
第13回	漢字の部分の名称	漢字を構成している名称を理解する				2級の学習		
第14回	常用漢字の筆順	常用漢字全般の筆順を覚えることができる				2級の学習		
第15回	模擬試験の実施	過去問の実施				2級の学習		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	サービス接遇Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ブライダル業界で働くにあたり必要な心構えと接客力を身につける、サービス接遇を通し、理解を深める。							
授業の一般目標	ブライダル業界で働く楽しさを新郎新婦のコーディネートなどから感じ取り、それをサポートする接客力を習得する。就職活動や社会人にスムーズになれる言動を身につける。サービス接遇3級(6月受験)準1級(11月受験)2級合格(1月受験)を目標とする。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明と検定要項の確認				3級試験対策		
第2回	サービススタッフの資質	必要とされる要件、従業要件が理解できる				3級試験対策		
第3回	専門知識	サービスの意義、機能、種類を理解する 商業用語、経済用語が理解できる				3級試験対策		
第4回	一般知識	社会常識、時事問題が理解できる				3級試験対策		
第5回	対人技能	一般的な人間関係や対人心理、マナーが理解できる				3級試験対策		
第6回	対人技能	接遇用語を理解し基本的な話し方ができる 提示説明の仕方が理解できる				3級試験対策		
第7回	実務技能	問題処理、環境整備、金品管理について理解できる				3級試験対策		
第8回	過去問題実施 模擬試験の実施	サービス接遇検定3級の過去問を実施				3級試験対策		
第9回	サービススタッフの資質	必要とされる要件、従業要件が備えており判断、表現ができる				2級試験対策		
第10回	専門知識	サービスの意義、機能、種類を理解する 商業用語、経済用語が理解できる				2級試験対策		
第11回	一般知識	社会常識があり、時事問題が理解できる				2級試験対策		
第12回	対人技能	一般的な人間関係や対人心理、マナーを理解し表現、実行することができる				0		
第13回	対人技能	接遇用語を知っており接遇者としての話し方ができる 提示説明ができる				2級試験対策		
第14回	実務技能	問題処理、環境整備、金品管理について理解し、対処ができる				2級試験対策		
第15回	期末試験の実施	期末試験の実施				2級試験対策		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	サービス接遇Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ブライダル業界で働くにあたり必要な構えと接客力を身につける、サービス接遇を通し、理解を深める。							
授業の一般目標	ブライダル業界で働く楽しさを新郎新婦のコーディネーターなどから感じ取り、それをサポートする接客力を習得する。就職活動や社会人にスムーズになれる言動を身につける。サービス接遇3級(6月受験)、2級(1月受験)準1級(12月受験)を合格目標とする。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べるができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明と検定要項の確認				準1級試験対策		
第2回	接客ロールプレイング	接客者としての基本言動(言葉使い、所作)ができる				準1級試験対策		
第3回	接客ロールプレイング	接客者としての基本言動(言葉使い、所作)ができる				準1級試験対策		
第4回	接客ロールプレイング	接客者としての基本対応ができる				準1級試験対策		
第5回	接客ロールプレイング	接客者としての基本対応ができる				準1級試験対策		
第6回	接客ロールプレイング	接客者としての基本対応ができる				準1級試験対策		
第7回	接客ロールプレイング	接客者としての基本対応ができる				準1級試験対策		
第8回	接客ロールプレイング	模擬面接実施				準1級試験対策		
第9回	接客ロールプレイング	模擬面接実施				準1級試験対策		
第10回	2級対策授業	2級試験範囲復習				2級試験対策		
第11回	2級対策授業	2級試験範囲復習				2級試験対策		
第12回	模擬試験	検定試験直前対策、2級合格のポイントを押さえる				0		
第13回	模擬試験	検定試験直前対策、2級合格のポイントを押さえる				2級試験対策		
第14回	サービス接遇検定答え合わせ	2級試験範囲復習						
第15回	期末試験実施	期末試験実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	マナープロトコル		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	美しい所作を身に付けると同時にお客様へのおもてなしを体験できる人間になる。マナープロトコル検定3級合格を目指す							
授業の一般目標	立ち方・座り方・食事のマナーを知る。マナープロトコル検定を取得し、社会人になった際にマナーに沿った対応ができるようになる。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	学んだ事を説明できる。2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べるができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション 主語と述語を近づける、相手を敬う表現を正しく使う	本科目の学習目標を知る 明快で尊敬語・謙譲語・丁寧語を正しく使用した文章を作成する						
第2回	修飾・被修飾関係をはっきりさせる・適切な指示代名詞を使う	情景や細やかな心情を表現するために必要な修飾語表現を学ぶ						
第3回	効果的に接続詞を使う・語尾を統一する	適切に接続詞を入れることで、文と文をつないで、文章を整理し読みやすくする						
第4回	一文を短くする・一文には1つの事柄だけを入れる	要領を得た、わかりやすい文章にするために、短い文章を作成する						
第5回	助詞「の」の連続使用は2回までにする・二重否定を避ける	単調な、またあいまいな印象を与える言葉の重複使用を避ける						
第6回	事実と推測を区別する	事実と推測を区別することで読み手の誤解を防ぐ						
第7回	理解しやすい構成にする	読み手が即座に全体像を把握できる構成にする						
第8回	国際プロトコルの基本	国際化社会において必要とされる、外交上のマナーやしきたりを学ぶ						
第9回	食事のマナー	各国料理のテーブルマナーについて学ぶ						
第10回	冠婚葬祭と贈答のマナー	日本の、特に葬しきたりと贈り物・お返しルールを学ぶ						
第11回	社会人に必要なマナー振り返り	他科目で修得した社会人として必要なマナーについて、マナー・プロトコル検定試験前に振り返る						
第12回	論理的な文書をつくる(1) 企画書	簡潔でわかりやすいビジネスEメールを書くコツを学ぶ				1月0日		
第13回	論理的な文書をつくる(2) メール文	簡潔でわかりやすいビジネスEメールを書くコツを学ぶ						
第14回	論理的な文書をつくる(3) 議事録	情報共有を目的とした議事録において必要な要素を学ぶ						
第15回	まとめ							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	プレゼンテーション・ディベート学 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を学ぶ。プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に、話し方などの口頭表現、身体表現を中心とした演習を行なう。							
授業の一般目標	プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、基本的な知識を修得し、さまざまな場面で自分の考えをしっかりと相手に伝える積極的な意思表現ができるようになる。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べるができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	プレゼンテーションに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でプレゼンテーションについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの種類と定義について						
第2回	コミュニケーションとプレゼンテーション	コミュニケーションとプレゼンテーションの違いについて						
第3回	プレゼンテーションの目的	紹介のプレゼンテーション						
第4回	プレゼンテーション準備と流れ1	聞き手の分析や目的の明確化						
第5回	プレゼンテーション準備と流れ2	プラン作成やツールについて						
第6回	聴衆に好感を持たれる話し方の基本	聴衆に好感を持たれる話し方の基本を学ぶ						
第7回	バーバル表現	聴衆に好感を持たれる態度、演出法						
第8回	ノンバーバル表現	聴衆に好感を持たれる態度、演出法						
第9回	身近なプレゼンテーション	スピーチ・フリートーク						
第10回	ディベート理論	インタビューをしてみよう						
第11回	ディベート基礎	会議と司会をしてみよう						
第12回	ディベート基礎	学校生活について話してみよう				1月0日		
第13回	ディベート演習	グループワーク						
第14回	発表に向けてのリハーサル							
第15回	プレゼンテーション発表と振り返り							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	國定 章子			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/kunisada/			

科目名	プレゼンテーション・ディベート学Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を学ぶ。プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に、話し方などの口頭表現、身体表現を中心とした演習を行なう。							
授業の一般目標	プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、基本的な知識を修得し、さまざまな場面で自分の考えをしっかりと相手に伝える積極的な意思表現ができるようになる。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	プレゼンテーションに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でプレゼンテーションについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	コミュニケーションとプレゼンテーション	1年後期の振り返り 模擬披露宴に向けてのプレゼン準備						
第2回	コミュニケーションとプレゼンテーション	模擬披露宴に向けてのプレゼン準備						
第3回	課題のプレゼンを行う	再構築したプレゼン発表を						
第4回	発表したプレゼンのフィードバック	プレゼンのフィードバック 課題への取り組み						
第5回	ディベートとは？	ディベートの考え方、定義						
第6回	ディベートの方法	議論の設定、持論の整理						
第7回	知的基礎をつける	知識の収集方法、考え方や話し方						
第8回	ディベート力を生かす	どの様な場面で生かせるのか						
第9回	ディベート実習	「今後日本の結婚式は無くなっていく」						
第10回	ディベート実習	「今後日本の結婚式は無くなっていく」						
第11回	ディベート実習	「日本は救急車を有料化するべきである」						
第12回	ディベート実習	「日本は救急車を有料化するべきである」						
第13回	ディベート実習	自らが現代社会において必要なテーマを探求し、討論する						
第14回	ディベート実習	自らが現代社会において必要なテーマを探求し、討論する						
第15回	期末テスト	1から14回目の内容で期末テスト実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	國定 章子			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/kunisada/			

科目名	セールスプロモーション		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	プランナーにおける新規接客からクロージングまでの流れを知る。数組のカップルを想定し接客ロープを実施する							
授業の一般目標	プランナーにおける新規接客からクロージングまでの流れを知り、ヒアリング・カンセリング能力の向上を図る。 また、規約内容を理解し、職業観も身に付ける。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	学んだ事を説明できる。2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	セールスに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でセールスについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	ブライダルにおける新規接客の基礎ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ガイダンス	授業概要説明・営業の仕事とは・ブライダルにおける新規接客の流れ・新規接客者の心得						
第2回	アイスペイクとウェルカムシートの内容	カップルの情報をつかむヒアリングシートの見方・アイスペイクの重要性について						
第3回	挨拶からヒアリングまでの流れをつくる	名刺の渡し方から挨拶・ヒアリングまでの流れを知る						
第4回	ヒアリング演習	ブライダル科1年生をお客様に見立てプランナーとしてのヒアリング演習を行う						
第5回	新規問い合わせ電話対応のヒアリング	来館するまでのサポート・来館キャンセルを防ぐために						
第6回	3つのセールスポイントについて	PREP法・時間制限を設け、セールスポイントをまとめる・3つのセールスポイント(小テスト)				お気に入りアイテムを持参		
第7回	式場の魅力を伝える①	PREP法・グループにわかる						
第8回	式場の魅力を伝える②	台本の作成				課題提出(仮台本)		
第9回	式場の魅力を伝える③	台本の作成・演習						
第10回	イメージトレーニング	提案力をみにつける						
第11回	クロージングについて	クロージングとは						
第12回	クロージングについて	演習						
第13回	新規接客ロープ	新郎新婦を想定した新規ロールプレイの実施						
第14回	新規接客ロープ	新郎新婦を想定した新規ロールプレイの実施						
第15回	期末テスト	新郎新婦を想定した新規ロールプレイの実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○	◎	○	◎		70	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎	○	◎		10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		○	◎	◎	○		10	B(2):70点以上
授業態度	○	○	◎	◎			10	C(1):60点以上
発表・作品								評価なし
演習								評価なし
出席								欠格条件
担当教員	森田 有香		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/				

科目名	ビジネス英語基礎		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	接客を行う上で、英語における応対能力を身に付ける。英語応対能力検定におけるレベルBを目指す							
授業の一般目標	英語で接客の基本的な会話が行えるようになる。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	接客でよく使用する英単語やフレーズを覚える事ができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	知っている英単語を使って会話を考えたり、作ったりする事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	英会話に関する関心を広げ、自らすすんで話してみる事ができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で英語について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	自己紹介や基本の接客を英語で行えるようになる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション	授業概要説明・確認テスト						
第2回	自分について話す	中学や高校で習った英語を使って、自己紹介してみる						
第3回	基本表現①	出会いや別れの挨拶・問いかけの表現						
第4回	基本表現②	お礼やお詫び・あいづち・わからない時の表現						
第5回	基本表現③	ホテルや飲食店、結婚式の職種・施設・設備などの単語を覚える						
第6回	接客英会話	声をかける・場所をご案内する				確認小テスト		
第7回	接客英会話	商品をお勧めする・注文を受ける						
第8回	接客英会話	依頼をするフレーズ						
第9回	接客英会話	日付や時間に関するヒアリング・案内の表現				確認小テスト		
第10回	学校について話す	学校生活について英語で話してみる						
第11回	接客英会話	アルバイト先に外国人が来た時の会話を考えて英語にしてみる						
第12回	自己PR英語	自己PRを作ってみる				1月0日		
第13回	自己PR英語	自己PRスピーチを英語で行う						
第14回	総復習	接客でよく利用する単語やフレーズの総復習を行う						
第15回	期末テスト							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					40	秀 (S):100点~90点
小テスト	○		○				20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート			○	○			10	良 (B):79点~70点
授業態度		◎	○				10	可 (D):69点~60点
発表・作品	◎	○	◎	○	○		20	不可(E):59点以下
演習								
出席			○					
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ビジネス英語応用		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ビジネス英語基礎で学んだ知識を応用し、接客時に英語応対が可能となることを目指す。							
授業の一般目標	英語応対能力検定B級C級取得。海外の参列者や新郎新婦に対しても英語で接客できるスキルを学ぶ。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	接客英会話ワークブック 基礎編							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ブライダル業界用語やフレーズの英語を覚え、使用する事ができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	覚えた英単語を使って接客の会話を考えたり、作ったりする事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ブライダル業界用語の英語に関する関心を広げ、自ら進んで話してみる事ができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダルの英会話について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	英語でのご案内やセールスを行えるようになる							
授業計画(全体)								
基本的な接客英語の知識を修得し実践に対応出来るようにする								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション 接客英会話の復習	授業概要の説明						
第2回	Unit1 案内業務	売場の場所や営業時間を答える						
第3回	Unit2 受付業務	受付対応 ホテルのやブライダルサロンでの応用						
第4回	Unit3 会計案内	金額提示や支払い方法を案内する						
第5回	Unit4 商品案内	商品の有無や特徴を表現できる						
第6回	Unit5 飲食店	注文を受ける、席の予約を受ける						
第7回	Unit6 まちかど1	写真の撮影の依頼を受ける。ブライダルシーンでの写真撮影時の英語表現						
第8回	Unit7 まちかど2	観光名所を案内する 京都の観光名所について						
第9回	Unit8まちかど3 Unit9トラブルシューティング1	有名人にサインをもらう 落とし物を探す						
第10回	Unit1011 トラブルシューティング23	けが人の対応 クレーム処理						
第11回	Unit12トラブルシューティング4 スピーキングテスト対策1	Unit13	注文の確認、商品の返品対応 地図を見て案内する					
第12回	Unit1415 スピーキングテスト対策23	イベントの案内をする 免税について				1月0日		
第13回	ホテルのおもてなし英会話	最上級のホスピタリティを伝えるホテル英語の基本表現を確認する						
第14回	洗練された大人の英語表現	日本文化のキーワード(歌舞伎、花見、茶道、和菓子、酒など)						
第15回	期末テスト							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	○	○	○		20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	◎	○	○	○	○		20	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品								評価なし 不可(E):59点以下
演習								評価なし
出席			○					欠格条件
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ホスピタリティマインドコミュニケーション			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	今、我が国では広く社会全体で「心の教育」への注目度が高まっています。また、多くの企業や組織では、相手の立場に立って、心から相手のことを考えて行動する「ホスピタリティ」を、CS(顧客満足)の向上に役立てようとする取り組みがなされています。この授業では相手の立場に立ったコミュニケーションや気遣い、共創やそのための職場環境、顧客満足などを学びます。							
授業の一般目標	ホスピタリティのTPOと5W1Hを理解し人間行動に結び付ける。各テーマに沿った小論文を作成することができる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ホスピタリティに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でホスピタリティについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	ホスピタリティ・マインドとは	マインドとホスピタリティとサービス 最低限のホスピタリティ実践項目						
第2回	ホスピタリティ・マインドとは・マインドと人間行動の特質	三種類の力 必要とされる特質 STEP1. 基本的マナーと好感						
第3回	ホスピタリティ・マインドとは・マインドと人間行動の特質	三種類の力 必要とされる特質 STEP2. 気配りとお客様満足						
第4回	ホスピタリティ・マインドとは・マインドと人間行動の特質	三種類の力 必要とされる特質 STEP3. 心配りと感動						
第5回	ホスピタリティ・マインドを個人として生かすには	ホスピタリティ・コミュニケーションとは						
第6回	ホスピタリティ・マインドを個人として生かすには	ホスピタリティと「言葉」						
第7回	ホスピタリティ・マインドを個人として生かすには	コミュニケーション上手になる秘訣						
第8回	ホスピタリティ・マインドを組織として生かすには	社会貢献的マインド ホテル、一般企業や団体でのマインド 5種類の感謝						
第9回	ホスピタリティ・マインドを組織として生かすには	CS コンプライアンス クレドとマニュアル 公共機関とホスピタリティ						
第10回	ホスピタリティ・マインドを相手に伝える	5種類の感謝から表現力を身に着ける						
第11回	異業種間で生かされるホスピタリティ・マインド	お客様相談室の機能/コンセルジュ						
第12回	国境を越えて生かせるホスピタリティ・マインド	世界各地の特色あるホスピタリティ 経済観念とホスピタリティマインド						
第13回	国境を越えて生かせるホスピタリティ・マインド	日本文化とホスピタリティ						
第14回	これからのホスピタリティ	マニュアルプラスのホスピタリティ 教育現場からホスピタリティを展望すると						
第15回	期末試験の実施	期末試験の実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	レストランサービス		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	レストランサービスに携わるプロフェッショナルとして身につけるべき基本事項を学び、お客様にレストランの料理だけではなく、ホスピタリティーに感動して頂くための技能を見につける。							
授業の一般目標	授業で学んだ内容を、リアルウェディングや模擬披露宴などの実践で活用し、就職後の接客サービスを円滑に行えるようになる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	西洋料理 料飲接客サービス技法							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	レストランサービスについて自分の意見を論理的に述べることができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	日常生活の中でサービス、ホスピタリティについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	授業で学んだ知識を、模擬披露宴やリアルウェディング等の実習で活かすことができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でサービス、ホスピタリティについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	レストランサービスの基本技能を行うことができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明						
第2回	第1章 食材の基礎知識 1節～4節	食品・食材の基礎知識や調理法の特徴について学ぶ						
第3回	第1章 食材の基礎知識 5節～9節	メニュー作成の諸知識と食器用具・備品について						
第4回	第2章 接客の基本	料飲サービススタッフとしてのホスピタリティマインドについて						
第5回	第3章 宴会とレストランサービス 1節～4節	宴会の種類と運営について、またレストランにおける各種サービス方法について学ぶ						
第6回	第3章 宴会とレストランサービス 5節～9節	テーブルサービス並びにメニュー管理について						
第7回	第4章 食文化	食文化、食環境の変遷と現状について知る				レポートのプレゼン発表		
第8回	第5章 施設管理 第6章 苦情処理と遺失物の取扱い	飲食を提供する現場の設備や防火管理について、またお客様の苦情の原因と対応事例を学ぶ						
第9回	第7章 食品衛生および公衆衛生 第8章 安全衛生	各種衛生管理に関する定義と目的を理解し、食品を提供する現場の状況を理解する						
第10回	西洋料理の食卓作法							
第11回	中国料理の食卓作法							
第12回	日本料理の食卓作法							
第13回	料飲商品の基礎知識	日本茶、紅茶、珈琲など提供する商品の基礎知識を習得する						
第14回	課外実習(報告レポート提出)	レストランサービスの基本を現場のサービスマンから実際に指導を受ける				レポート提出		
第15回	期末テスト							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	◎	◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			◎	○	○		10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ブライダル企業研究		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	婚礼会場はどのような場所にあるのか、そこではどのような仕事があるのか、関連業種などについて調べる。インターンシップの事前学習も行う。ブライダル業界をプレ・当日、新生活部分に分けて様々な角度から検討し、理解を深める。							
授業の一般目標	ブライダル業界を調べる事によって業界内の様々な職種を知る。また、そこで求められる人物像、知識などを各自が明確にイメージすることによって学習意欲を高める。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	就活ナビノート							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. ブライダル業界とは何かについて説明できる。 2. ブライダル業界の各領域の概要と課題を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げたブライダル関連企業について自分の意見を論理的に述べるができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ブライダルに関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダル業界について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ガイダンス	ブライダル業界の関連職種はどのようなものがあるか理解する						
第2回	ブライダル業界企業の特徴①	上場、未上場、親会社が他業種などブライダル企業の現在を知る						
第3回	ブライダル企業の特徴②	ブライダル企業を調べる						
第4回	ゲストハウス・ホテルウェディングの違い	ゲストハウス・ホテル 各施設でのウェディングをイメージし自分の将来像を考える						
第5回	ブライダル業界調査 発表	ガーデンオリエンタル大阪について企業研究と発表						
第6回	ガーデンオリエンタル大阪で職種体験	実際の現場に行き、様々な職種について知ろう				校外学習(6月1日)		
第7回	自分を知る	前回の体験を踏まえて、自分はなぜこの業界で活躍したいと思うのか、どの職種に興味を持ったかを知る						
第8回	就職活動 準備①	就職活動に向けた企業研究ノート作成について						
第9回	就職活動 準備②	就職活動での面接対策(グループディスカッション)						
第10回	就職活動 準備③	就職活動での面接対策(グループ面接)						
第11回	就職活動 準備④	就職活動での面接対策(個人面接)						
第12回	インターンシップについて	インターンシップ先での働き方やマナーについて				1月0日		
第13回	インターンシップ先の企業研究							
第14回	まとめとインターンに向けての心構え	これまでのまとめとその業界に求められる人物像などについてディスカッションを行う				ブライダル企業に関する レポート提出		
第15回	まとめとインターンに向けての心構え	インターンシップの事前学習、お礼状や履歴書の準備など						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点(レポート・小テスト)70%、授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	◎	◎	○	○			40	B(2):70点以上
授業態度			○	○			20	C(1):60点以上
発表・作品		○	○				10	D:59点未満 未修得
演習								評価なし
出席			○					欠格条件
担当教員	森田 有香			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/			

科目名	キャリアデザイン		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	各自の就職活動が円滑に進むよう、担当教員がアドバイスなどを適宜行う。エントリーをした企業への履歴書の記入や自己PRなどを具体的に指導する							
授業の一般目標	就職先企業が決まった後も今後仕事が長く出来るように自己研鑽をおこなう。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	就職に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で社会人について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	キャリアデザインについて	自己紹介・シラバス説明・就職活動について・キャリアマップ登録・就職希望調査						
第2回	就職活動企業様によるガイダンス	マイナビ2022登録・活用術、2022就職活動について						
第3回	就職活動企業様によるガイダンス 職務適性テスト	自己分析の実施:特性分析・性格の特徴・情緒傾向・職務適性・テスト信頼度・自分を伸ばす為のアドバイス の6つの項目から診断						
第4回	自己理解Ⅰ	過去を振り返り現在の自分を知る。ネガポジマップと自己PRマップの作成						
第5回	職務適性テストフィードバック	結果を基に自己及び他己評価を行い、自己PRを作る						
第6回	自己理解Ⅱ	グループワークにて「いいところ探し」 自分自身の分析と他人から見た自分とのギャップを分析						
第7回	自己理解Ⅲ	文章化の練習・エントリーシートを作成し提出						
第8回	就職活動企業様ガイダンス	生活設計・家計管理・保険について						
第9回	企業研究Ⅰ	企業研究の必要性について・企業研究方法・説明会での基本所作						
第10回	企業研究Ⅱ	合同企業説明会参加企業の企業研究シート作成						
第11回	企業研究Ⅲ	企業研究発表(1人3分)・履歴書作成						
第12回	企業説明会に向けて	合同企業説明会にむけての最終確認(挨拶、所作、服装チェック) 尊敬語・丁寧語・謙譲語の学習				1月0日		
第13回	模擬面接Ⅰ	企業説明会振り返り グループディスカッションDVD上映→解説→実践						
第14回	模擬面接Ⅱ	グループ面接について 個人面接DVD上映→解説→実践→動画撮影→振り返り						
第15回	模擬面接Ⅲ	模擬面接:評価→振り返り 今後の活動について						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト	◎	○					10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		○	○	◎			20	B(2):70点以上
授業態度			◎				30	C(1):60点以上
発表・作品	◎		○				40	D:59点未満 未修得
演習								評価なし
出席			○					欠格条件
担当教員			実務経験紹介					

科目名	基本IT技術 I		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)								
授業の一般目標	Word・PowerPoint他アプリを使用しながら伝わるデザインを模索し完成させ伝えることができるようになること。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	学んだ事を説明でき領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べるができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	伝える事の意味に関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で伝える事について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	プロ目線の思考と表現ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1週	パソコンルームの使用法とデジタル基礎講座	・パソコンルームの使用上の注意事項について ・自己紹介 ・DTPからWEBまた使用する環境・端末など、広範囲にわたる知識を得るための基礎体力をつける。						
第2週	デジタル基礎講座	・DTPからWEBまた使用する環境・端末など、広範囲にわたる知識を得るための基礎体力をつける。						
第3週	Word基礎	・テキストの演習と課題を与えて、指定時間内に提出する。						
第4週	Word基礎	・テキストの演習と課題を与えて、指定時間内に提出する。						
第5週	Word基礎	・テキストの演習と課題を与えて、指定時間内に提出する。						
第6週	Word基礎	・テキストの演習と課題を与えて、指定時間内に提出する。						
第7週	デザイン基礎講座	・デザインの技法やレイアウトについて理解し、作成する						
第8週	画像編集基礎	・アプリの操作方法と画像編集の基礎を習得する						
第9週	Word応用	・名刺を作成する						
第10週	Word応用	・課題を与えて、A4リーフレットを作成、完成させる						
第11週	Word応用	・課題を与えて、A4リーフレットを作成、完成させる						
第12週	Word応用	・前期定期試験実施				1月0日		
第13週	PowerPoint基礎	・操作方法を理解する ・プレゼンテーション技法を理解する						
第14週	PowerPoint応用	・簡単な課題を与えて、5枚程度のシートを作成する						
第15週	PowerPoint応用	・簡単な課題を与えて、5枚程度のシートを作成し、完成させる						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	基本IT技術Ⅱ		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	デジタルを利用することでルーチンワークの軽減を体験する。 また、インターネット・ホームページ・パソコンなどの広範囲のデジタルの基礎知識を習得する							
授業の一般目標	Excelを使用しながら省く！をテーマにデータ完成させることができるようになること。 またホームページの更新作業についての基礎知識を得る。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	PowerPoint応用	プレゼンテーション						
第2回	動画編集基礎	PowerPointを用い動画編集の基礎を学ぶ						
第3回	動画編集基礎	PowerPointを用い動画編集の基礎を学ぶ						
第4回	PowerPoint応用	プレゼンテーション						
第5回	Excel基礎	・テキストの演習と課題を与えて、指定時間内に提出する。						
第6回	Excel基礎	・テキストの演習と課題を与えて、指定時間内に提出する。						
第7回	Excel基礎	・テキストの演習と課題を与えて、指定時間内に提出する。						
第8回	Excel基礎	・テキストの演習と課題を与えて、指定時間内に提出する。						
第9回	Excel基礎	・テキストの演習と課題を与えて、指定時間内に提出する。						
第10回	Excel基礎	・テキストの演習と課題を与えて、指定時間内に提出する。						
第11回	Excel基礎	・テキストの演習と課題を与えて、指定時間内に提出する。						
第12回	ホームページ基礎	・HTMLとCSSを理解する。				1月0日		
第13回	ホームページ基礎	・ホームページの更新作業を理解する。						
第14回	Excel基礎	後定期試験実施						
第15回	ホームページ基礎	最終課題作成とパソコン内のデータ整理および削除作業						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	基本IT技術Ⅲ		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	デジタルを利用することでルーチンワークの軽減を体験する。 また、インターネット・ホームページ・パソコンなどの広範囲のデジタルの基礎知識を習得する							
授業の一般目標	Excelを使用しながら省く！をテーマにデータ完成させることができるようになること。 またホームページの更新作業についての基礎知識を得る。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べるができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	Adobe Photoshopによる画像編集1	第1章 Photoshopの基本操作を知ろう						
第2回	Adobe Photoshopによる画像編集2	第2章 写真を補正しよう						
第3回	Adobe Photoshopによる画像編集3	第3章 写真を加工しよう						
第4回	Adobe Photoshopによる画像編集4	第4章 写真の一部を選択して補正しよう						
第5回	Adobe Photoshopによる画像編集5	第5章 写真を合成しよう						
第6回	Adobe Photoshopによる画像編集6	第6章 ポストカードを作ろう						
第7回	総合演習問題	テーマに沿ったデータ作成						
第8回	Adobe illustratorによるデザイン編集1	第1章 イラストを描こう						
第9回	Adobe illustratorによるデザイン編集2	第2章 ロゴをつくろう						
第10回	Adobe illustratorによるデザイン編集3	第3章 名刺をつくろう						
第11回	Adobe illustratorによるデザイン編集4	第4章 地図をつくろう						
第12回	Adobe illustratorによるデザイン編集5	第5章 バナーをつくろう				#VALUE!		
第13回	Adobe illustratorによるデザイン編集6	第6章 フリーペーパーをつくろう						
第14回	総合演習問題	テーマに沿ったデータ作成						
第15回	定期試験							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	基本IT技術Ⅲ		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	デジタルを利用することでルーチンワークの軽減を体験する。 また、インターネット・ホームページ・パソコンなどの広範囲のデジタルの基礎知識を習得する							
授業の一般目標	Excelを使用しながら省く！をテーマにデータ完成させることができるようになること。 またホームページの更新作業についての基礎知識を得る。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べるができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	Adobe Photoshopによる画像編集1	第1章 Photoshopの基本操作を知ろう						
第2回	Adobe Photoshopによる画像編集2	第2章 写真を補正しよう						
第3回	Adobe Photoshopによる画像編集3	第3章 写真を加工しよう						
第4回	Adobe Photoshopによる画像編集4	第4章 写真の一部を選択して補正しよう						
第5回	Adobe Photoshopによる画像編集5	第5章 写真を合成しよう						
第6回	Adobe Photoshopによる画像編集6	第6章 ポストカードを作ろう						
第7回	総合演習問題	テーマに沿ったデータ作成						
第8回	Adobe illustratorによるデザイン編集1	第1章 イラストを描こう						
第9回	Adobe illustratorによるデザイン編集2	第2章 ログをつくろう						
第10回	Adobe illustratorによるデザイン編集3	第3章 名刺をつくろう						
第11回	Adobe illustratorによるデザイン編集4	第4章 地図をつくろう						
第12回	Adobe illustratorによるデザイン編集5	第5章 バナーをつくろう				#VALUE!		
第13回	Adobe illustratorによるデザイン編集6	第6章 フリーペーパーをつくろう						
第14回	総合演習問題	テーマに沿ったデータ作成						
第15回	定期試験							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	論理的思考力		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	日常生活に関する題材を取り上げ、論理的な思考力をつけ、数学的な考察を行える。小学校の算数程度のみで楽しみながらできる。一般にビジネス、つまり仕事におけるコミュニケーション能力とは論理的な表現力を指し、情報の収集、整理・統合、思考そして発信に至るまで論理的であることが要求されるため、今日、社会人として求められる能力の1つであるコミュニケーション能力を数学的思考を通して身につける。							
授業の一般目標	社会に適応しその要求する能力を身につける。学校で受けたすべての知識を忘れ去った後でも、なおかつ一生涯に役に立つような、論理的思考力・表現力をつける。『数学』と『読解力・表現力』は教育の指標としては同じカテゴリーに分類される。つまり、『数学』はまさに『ことばの力』を習得する学問であるとの認識を前提に、自然や日常にひそむ様々な問題を、算数・数学がこの世界・社会で果たしている役割を見つけ、理解する能力を身につける。さらに、現実社会生活を送る市民として、そのさまざまな状況での必要性に合致した方法で数学を活用し、数学とよい関係を結んでいくことのできる能力をつける。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	なし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 論理的な思考力についての必要性と内容説明ができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 社会に求められるコミュニケーション能力や理解する能力を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 日常生活の中で論理的な思考力について、主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
社会に適応するのに必要な(社会が要求する)能力を身につけ、数学を通じ読解力と表現力を身に付ける								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について インド式計算法	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 2桁の掛け算・割り算・足し算・引き算も驚くほど簡単に計算ができるようになるインド式数学による計算法ができる						
第2回	天文学的数値の計算	ミクロの世界からマクロの世界まで幅広いレンジの指数計算 銀行預金やローンの金利から音楽の世界、さらには自然界の現象まで						
第3回	地頭力 ひとふでがき	「答えのない問題を解いていく力」、すなわち地頭力を鍛える5つの方法を覚える 一見複雑な問題を、本質的に必要な部分を抽象化し、解析することにより結論を導き出せる						
第4回	トイレットペーパーの長さを 測るには？	問題を解くためにはいろいろな方法があります 見方を変えれば、複雑な問題も簡単に解くことができる						
第5回	頭の中なら自由に動かせる キーパーソンを探せ	問題を解くとき、考える対象が大きくても頭の中で自由に動かせる 発言の矛盾を見つけ出すには、数学的な論理力が必要である。推理の進め方について覚える						
第6回	鏡の不思議	鏡は左右は入れかえるのに上下は何故変わらないのか。自然界の右と左と鏡の中の世界の話を聞く						
第7回	偶然を科学する	世の中には偶然と思われる現象がたくさんある。しかし、偶然と思われる現象にも原因があることを覚える						
第8回	でたらめを科学する	0から10までの数字をでたらめに並べたものを乱数という 乱数を作る方法から、乱数の応用までを活用できる						
第9回	幸せな結婚	あなたはこれからお見合いをします 目の前に現れる花嫁さん候補はN人 できれば、一番素晴らしい女性を選びたいところですが…						
第10回	暗号の秘密	インターネットを経由して情報のやり取りを行う場合、悪意のある第三者に情報を盗み見される危険性を防止するには？						
第11回	素数の秘密	素数とは5や7のように他の数で割り切ることができない数 その素数には何か隠された魅力があるようです そのなぞが解ける						
第12回	モンティホール問題	直感的な答えと、きちんと確率論に則って導き出された答えが異なるテレビ番組から生まれた史上最も議論を呼んだ確率問題が解ける				1月0日		
第13回	パラドックスを楽しむ	妥当に見える推論のどこに間違いがあるかをクイズとして楽しみ、数学的推論に対する教訓を得る				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 参加型の授業で単位を認定する。期末試験は行わない。80%以上の出席が前提。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S) : 100点~90点
小テスト							-	優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				20	良 (B) : 79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D) : 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E) : 59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ボランティア活動 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	<p>各分野で活動する実践者によるオムニバス方式での講義をとおり、ボランティア活動の価値、意義、役割、実際の活動等について理解を深めた後に、実際にボランティア活動を行う。施設見学や実際のボランティア体験等を行う予定なので、シラバスの変更(施設との調整などにより)が行われることもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動はもうひとつの信頼を育むコミュニケーションであることを覚える ・ボランティア活動のリスクなどについても学び、専門職として関わることを前提とした学びの視点、実践活動を通じたスキルや知識を覚える ・主体的にボランティアに参加することができる人材になる 							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の基礎を覚え、ボランティア活動に対するイメージを広げる ・ボランティア活動の歴史を知り、現在求められているボランティア活動意義や社会的役割を身につける ・NPOやコミュニティ・ビジネスなど新たな非営利団体の概要を覚える ・身近な課題を解決するボランティア活動について、自らデザインできるようになる ・ボランティアを実際に体験することで、コミュニケーションと共感の大切さを学ぶ 							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	なし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ボランティア活動の価値や意義、役割の説明が出来る							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ボランティア活動の基礎や活動意義を述べる事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ボランティア活動を通じ、自主的な行動が出来るようになり社会的役割を身に付け社会人基礎力を上げていく							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	ボランティア活動を通じ、コミュニケーション能力を上げ社会的役割を身に付ける							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
ボランティア活動の基礎知識を修得し、活動に参加し社会的役割を身につける事ができる								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容	備考					
第1回	授業開始について 講義ガイダンス ボランティア活動とは	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 ボランティアの理念(無償性、自主性、公益性) ボランティア活動の社会的意義						
第2回	ボランティアのタイプと 活動パターン	ボランティアはあらゆる分野に及んでいる。ボランティア活動の種類と内容、ボランティアのタイプと活動パターン						
第3回	ボランティア活動における リスク管理	ボランティア活動の基本原則 ボランティア活動における自己責任・義務						
第4回	ボランティア活動 (外部講師)	実際のボランティア活動の説明・意義・参加について						
第5回	ボランティア活動についてグループディスカッション	実際のボランティア活動に参加するにあたっての、各人の役割・分担、その他事前準備						
第6回	ボランティア活動への参加 6月21日(土) 骨髄バンク全国大会における道案内・受付	ボランティア体験(1)(こちらで調整したボランティア活動への参加)ボランティアの日程は、活動団体によって決まるので時期がずれることがある						
第7回								
第8回								
第9回								
第10回	ボランティア活動の 報告・検討会	ボランティア体験に基づく結果の報告、気づき、等を発表し全員で討議する						
第11回	ボランティア活動計画の作り方	自分が主体的にボランティア活動に参加するために活動計画をつくり、参加の申し込み等アレンジする						
第12回	ボランティア活動への参加	ボランティア体験(2)(自分で調整したボランティア活動への参加)	1月0日					
第13回								
第14回								
第15回	総括 ボランティア活動の展開	ボランティア成果検討・発表会、各人のボランティアについての考え方を討議し、今後の展開について話し合う						
成績評価方法								
<p>講義参加態度及びレポートを基に評価をする。活動実践もあるものは評価対象とする。 講義・グループセッション等参加態度等も加味して総合的な評価を行う。意欲的で積極的な参加が望ましい。 活動報告書の記載内容は、所定の用紙をあらかじめ配付するが、</p> <p>(1)活動日時・場所・実働時間、 (2)活動内容(簡潔に)、(3)活動の自己評価(400字程度)の3項目からなる。</p>								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				30	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			30	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習	○			◎			20	
出席			○	◎			20	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ボランティア活動Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義・実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	各分野で活動する実践者によるオムニバス方式での講義をとおり、ボランティア活動の価値、意義、役割、実際の活動等について理解を深めた後に、実際にボランティア活動を行う。施設見学や実際のボランティア体験等を行う予定なので、シラバスの変更（施設との調整などにより）が行われることもある。 ・ボランティア活動はもうひとつの信頼を育むコミュニケーションであることを覚える ・ボランティア活動のリスクなどについても学び、専門職として関わることを前提とした学びの視点、実践活動を通じたスキルや知識を覚える ・主体的にボランティアに参加することができる人材になる							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の基礎を覚え、ボランティア活動に対するイメージを広げる ・ボランティア活動の歴史を知り、現在求められているボランティア活動意義や社会的役割を身につける ・NPOやコミュニティ・ビジネスなど新たな非営利団体の概要を覚える ・身近な課題を解決するボランティア活動について、自らデザインできるようになる ・ボランティアを実際に体験することで、コミュニケーションと共感の大切さを学ぶ 							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	なし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ボランティア活動の価値や意義、役割の説明が出来る							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ボランティア活動の基礎や活動意義を述べる事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ボランティア活動を通じ、自主的な行動が出来るようになり社会的役割を身に付け社会人基礎力を上げていく							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	ボランティア活動を通じ、コミュニケーション能力を上げ社会的役割を身に付ける							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
ボランティア活動の基礎知識を修得し、活動に参加し社会的役割を身につける事ができる								
授業計画（授業単位）								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について 講義ガイダンス ボランティア活動とは	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 ボランティアの理念(無償性、自主性、公益性) ボランティア活動の社会的意義						
第2回	ボランティアのタイプと 活動パターン	ボランティアはあらゆる分野に及んでいる。ボランティア活動の種類と内容、ボランティアのタイプと活動パターン						
第3回	ボランティア活動における リスク管理	ボランティア活動の基本原則 ボランティア活動における自己責任・義務						
第4回	ボランティア活動 (外部講師)	実際のボランティア活動の説明・意義・参加について						
第5回	ボランティア活動についてグループディス カッション	実際のボランティア活動に参加するにあたっての、各人の役割・分担、その他事前準備						
第6回	ボランティア活動への参加 6月21日(土) 骨髄バンク全国大会における道案内・受付	ボランティア体験(1) (こちらで調整したボランティア活動への参加) ボランティアの日程は、活動団体によって決まるので時期がずれることがある						
第7回								
第8回								
第9回								
第10回	ボランティア活動の 報告・検討会	ボランティア体験に基づく結果の報告、気づき、等を発表し全員で討議する						
第11回	ボランティア活動計画の作り方	自分が主体的にボランティア活動に参加するために活動計画をつくり、参加の申し込み等アレンジする						
第12回	ボランティア活動への参加	ボランティア体験(2) (自分で調整したボランティア活動への参加)				1月0日		
第13回								
第14回								
第15回	総括 ボランティア活動の展開	ボランティア成果検討・発表会、各人のボランティアについての考え方を討議し、今後の展開について話し合う						
成績評価方法								
講義参加態度及びレポートを基に評価をする。活動実践もあるものは評価対象とする。 講義・グループセッション等参加態度等も加味して総合的な評価を行う。意欲的で積極的な参加が望ましい。 活動報告書の記載内容は、所定の用紙をあらかじめ配付するが、 (1)活動日時・場所・実働時間、 (2)活動内容(簡潔に)、(3)活動の自己評価(400字程度)の3項目からなる。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S) : 100点~90点
小テスト							-	優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				30	良 (B) : 79点~70点
授業態度			○	◎			30	可 (D) : 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E) : 59点以下
演習	○			◎			20	
出席			○	◎			20	
担当教員					実務経験紹介			